

東京女子高等師範學校  
日本幼稚園協會

# 幼 兒 の 教 育

主 幹

堀 七 藏

第 二 十 五 卷 九 月 號 第 六 號

幼 兒 教 育 の 方 法	北 澤 種 一
幼 兒 の 舞 踊 に つ い て	倉 橋 惣 三
秋 の 圃 場	竹 島 茂 郎
新 任 の 一 日	松 本 初 枝
幼 兒 の 活 動 性	堀 七 藏
育 兒 叢 談 (三)	記 者
幼 兒 の 生 活	附 屬 幼 稚 園 一 保 姆
遊 戲 講 習 會 の 盛 況	記 者
教 育 家 諸 君 に 訴 ぶ	澤 柳 政 太 郎
長 編 小 說 「 兼 ち や ん 」	岡 田 美 津

# 少年少女常識叢書



東京高等師範學校 府立師範學校 各中學校 女學校 學習院 教官分擔責任執筆

15	東京小松崎三校著	14	東京小松崎三校著	13	元江藤保太郎著	12	東京岡崎常太郎著	11	學岡崎常太郎著	10	東京大瀧正寛著	9	元江藤保太郎著	8	東京中澤伊與吉著	7	東京古川龍文著	6	元東京白井勝三著	5	東京白井勝三著	4	東京白井勝三著	3	元東京小松崎三校著	2	東京小松崎三校著	1	元東京小松崎三校著
海	空	無線電	南	昆	人	瓦	發明家	興味	星	動	火	蒸	植	地	震	知	識	界	力	氣	活	生	空	偉	世	知	識	界	
中	中	無線電	球	虫	の	の	と	の	の	の	と	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
旅	動	電話	巡	の	行	魔	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算	算		
行	園	電話	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	

30	東京田邊八校著	29	東京坂口台校長著	28	東京岡崎常太郎著	27	東京岡崎常太郎著	26	東京岡崎常太郎著	25	東京岡崎常太郎著	24	東京岡崎常太郎著	23	東京岡崎常太郎著	22	東京岡崎常太郎著	21	東京岡崎常太郎著	20	東京岡崎常太郎著	19	東京岡崎常太郎著	18	東京岡崎常太郎著	17	東京岡崎常太郎著	16	東京岡崎常太郎著
心	鎌	我	現	地	寫	理	飛	北	偉	世	鐵	國	格	算	術	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
の	倉	等	常	下	生	化	行	半	人	界	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	
算	物	身	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭	辭
術	語	體	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	典	

認 定 文 部 省  
東京高師茗溪會 推 獎  
各 都 市 教 育 會 賞 讚

東京市牛込區西五軒町四十一番地  
發 行 所 文 洋 社  
電 話 牛 込 九 一 六 番  
振 替 東 京 一 五 〇 九 四 番

後前頁十八百十數畫挿裝美判六四 卷十三全  
錢六料送 圓壹金各價定  
◆呈 進 本 見 容 內 ◆

## 謹告

一、機關雜誌幼兒の教育は發行者を本會主幹堀七藏發行所を日本幼稚園協會に變更し、前發行者教文書院越元新吉とは一切の關係を斷ちました。従つて幼兒の教育に關する一切の御通信は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛に御願ひ致します。

二、日本幼稚園協會譯幼稚園保育要目の版權は日本幼稚園協會が譲受けましたから御注文の方は當協會宛に御申込下さい。定價金壹圓五拾錢前金(郵税不要)にて振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に御拂込み下さらば直に御送附いたします。尙大正十二年十二月以降の幼兒の教育、多少殘本が日本幼稚園協會にありますから入用の方は至急御申込下さい。

大正十四年九月

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會



# 育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長

東京女子高等師範學校長

茨木清次郎

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀七藏

贊助員

東京高師教授

巖谷秀雄

東洋大學教授

高島平三郎

東京帝大醫科講師

醫博

乙竹岩造

東京府女子師範學校長

龍山義亮

東京高師教授

文博

太田孝之

帝國教育會理事

土川五郎

慶應大學教授

醫博

唐澤光德

松江高等學校長

野口援太郎

早蕨幼稚園長

醫博

岸邊福雄

京都帝大教授

乘杉嘉壽

帝國教育會會長

文博

久留島武彦

東京女子高師教授

野上俊夫

東京高師教授

文博

澤柳政太郎

東京女子高師教授

倉橋惣三

市京女子高師教授

文博

佐々木秀一

東京帝大教授

松村武雄

東京女子高師教授

文博

下田次郎

東京帝大教授

松本亦太郎

東京女子高師教授

醫博

菅原教造

奈良女子高師校長

榎山榮次

東京市學務課長

醫博

富士川游

奈良女高師附屬幼稚園主事

三田谷啓

東京女子高師講師

醫博

藤井利譽

東京高等學校長

湯原元一

長崎縣師範學校長

文博

福士末之助

東京帝大教授

吉田熊次

東京女子高師校長

文博

谷本富

日本女子大學長

安井哲子

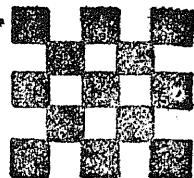
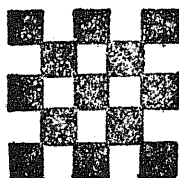
文博

谷本富

日本女子大學長

安井哲子





第 六 號      幼 兒 教 育      第 二 十 二 卷

— ( 次 目 ) —

長編 小説 兼ちやん……………	教育會館の建設に就いて再び全國二十萬の 教育者諸君に訴ふ……………	遊戯講習會の盛況……………	幼兒の生活……………	育兒叢談 (三)……………	幼兒の活動性……………	新任の一日……………	秋の圃場……………	幼兒の舞踊について……………	幼兒教育の方法……………
岡田美津……………五頁	澤柳政太郎……………五頁	記 者……………四九頁	附屬幼稚園一保姆……………四頁	記 者……………三六頁	堀七藏……………二八頁	松木初枝……………二四頁	竹島茂郎……………二頁	倉橋惣三……………二頁	北澤種一……………二頁



帝國美術院會員  
東京美術學校教授

岡田三郎助先生  
丹羽禮介先生 著共  
版再ち忽

# 學校教育圖按畫集と其描き方

概念こそ其描法數  
百の作例容易に  
其道に入らん

圖案は一般工藝上日常生活上にも必須缺く事の出来ぬ教育指導の方法また其應用ののみならず吾人が日常生活上にも必須缺く事の原因はそれな一般圖案に教育的圖案に關する概略の要求と相距る事頗る遠し蓋しその原因はそれな一般圖案に教育的圖案に關する概略の法作例數百數を鮮明なる石版印刷極彩色を以て示して何人にも容易に其道程に入らしむ同好の士の精讀研究を俟つ

帝國美術院會員  
東京美術學校教授  
岡田三郎助先生  
丹羽禮介先生 著共  
版三

# 學校教育圖按畫集と其描き方

線より畫になる  
迄の順序こそ其模  
範畫集

爾刊全一冊洋綴彩色畫約百葉畫なる迄の單彩畫約百葉畫方約五十頁 定價金參圓八拾錢送料金拾八錢 眼で正確なるものを視 頭腦で之を會得し 心で之を指導する事は どうしても 指導者の教育に俟つ 蓋し本書公刊の所以である 本書は指導者に對する希望 順序と練習を教し 内容の作畫 人物 鳥獸 魚鳥 風景 花 卉 蔬菜 器具等數百畫盡く一本の線より段々と繪となる迄の順序と描き方を示し 加藤 風真 風真 花 模範畫數百を以てクレヨン畫の眞髓を明かにしたる近來の大作である 學校 教育者は勿論各家庭の必備を推奨す

女子學習院教授  
黑田芳生 著共  
上甲二郎 著  
刊新

# 兒童の描いたクレヨン鑑賞畫集と其批判

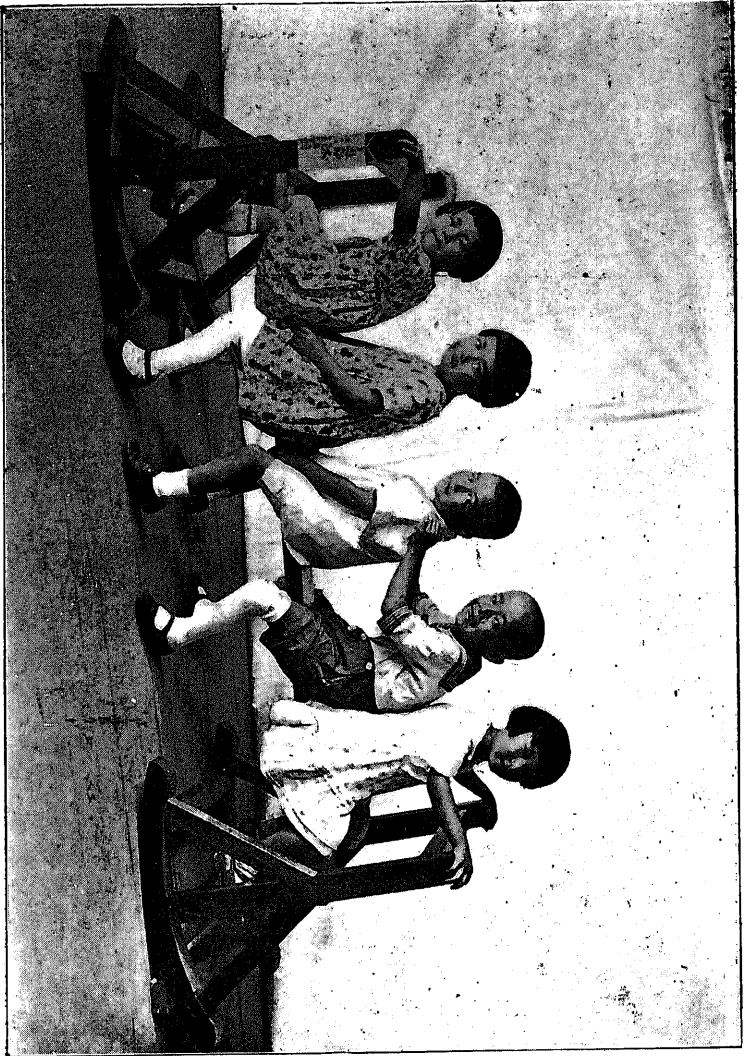
彼等!! 兒童の  
世界より生れ  
た絶好の鑑賞  
額畫の提供!!

藝術教育の双翼の一つであるならばならぬ鑑賞の一面に至つては 殆んど何等の工夫考案を見ない 成程古今東西優品の輯集にある然し是等は何れも最高級のものとて 兒童の藝術生活と無絶し彼等の世界からは餘りに遠い 歩一歩健全なる向上の一路に導くものとして 本書は全國の小學校から廣く兒童畫の優品を聚め 其の中より特に代表的なもの各學年二枚宛を採擇し 而も各作品につき一々學年相應の説明を附すると共に それく鑑賞の方法を指示した 又別冊とし右畫集の教師用書を編して之に附することとした 二者相俟つて試作鑑賞の効果は一層顯著ならん

發行所 東京市牛町九丁目 區 中 文 館 書 店 電話 三三三 三三三 三三三 三三三 番 番 番 番



遊 戯 の 講 習



一 の び 遊





號六第 育教の兒幼 卷六十二第

月九年四十正大

- 一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。
- 一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。
- 一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。
- 一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

# 幼児教育の方法

東京女子高等師範學校附屬小學校主事

北澤 種一

文部省主催幼稚園教育に關する講習會に於て北澤教授が講演せられた筆記の概要であります。同教授は兼れて文部省在外  
研究員として歐米に留學せられ昨年末歸朝せられた方であります。本講演は同教授が歐米に於て研究せられた幼児教育の一  
端であります。が實は筆記の不完全なるためその意を盡さない點も多々あると思はれます。この點に對し同教授は豫め御寛容  
あることと信じますが、兼れて讀者諸君に對しては記者は一切の責任を帯びます。

## 一、

幼児の教育と云ふ事に就きまして私は專問的に研究致した事が無いのであります。随つて皆様の満足  
遊される様な御話しを申上げる事が出来ないであります。唯ほんの僅かばかり最近私の心に一寸感じ  
ました事を御話申上げ様かと思ふのであります。又此の話しが途中で思はぬ方向に脱線致しましても  
其れは御ゆるし願ひ度いと思ふのであります。

先づ私は近代の幼児教育に非常に盡力した偉大な女性に就て少しく御話して見たいと思しますが、其  
の中の一人としてマーガレット、マクミラン女史をあげたいと思ひます。マクミラン女史は英國今日の

教育に於て非常に重要視されて居ります處の保育學校と云ふものを始めて行つた人であります。一九一八年に英國文部大臣フツシャー氏が定めました所の法律によりますと、此の保育學校をナショナル、システムに加へると云ふ事が見られるのであります。教育上のナショナル、システムになつたと申します事は如何なる事かと云ひますと、國家が國民を教育する組織の一つに加へて國家が之れに對して干渉し、其の大いさに適當するだけの御金、即ち補助金を與へて保護をなし、又地方自治の團體は之れに金圓を寄附する義務を負はされるのであります。即ち今まであまり顧られなかつた保育學校と云ふものが一躍してナショナル、システムとなつたのは實に喜ぶべき事であると思ふのであります。戰爭以前には幼稚園及び幼兒學校と云ふのがありまして幼兒の教育と云ふものに力を盡して居りましたが、ナショナル、システムでは無かつたのであります。然して戦後に於て各國共に多くの國民を犠牲にしてあらん限りの智慧をしばつて戦つたのでありますから、痛切に第二國民の教育の必要、特に體育の必要に目醒めて來たのであります。國民教育はどうしても幼兒の時代から之れを適當に指導し、體育の奨勵をしなければならぬと言ふ事を各人が考へて來たのであります。其の結果として保育學校が重ぜられるに至つたのであります。

何故他の幼稚園及び幼兒學校をさしおいてこれのみがナショナル、システムとなつたかと云ふ事は此保育學校の特質を考へました時に直にうなづかれる事なのであります。其の特質は後に御話致します

として、兎に角他の幼稚園及び幼兒學校よりも勝つて居て體育を非常に重じて居つたと言ふ事が大なる原因であらうと思はれます。そしてこの保育學校に相當した補助金の制度が定められたのであります。

## 二

マガレット、マクミラン女史は始め小學校の教師をして居りました。英國に於ける幼兒の學齡は五歳からで、三歳から五歳までを幼稚園時期とせられて居ります。處でマクミラン女史は奉職中尋常一年に入學する兒童が身體方面は勿論精神的方面にも甚しい差異のある事を經驗致しまして非常に驚きました。精神的に大いに發達した子供もあれば又少しも發達して居らず、前者と後者は同年齡でありながら、一年も二年もの智能の差がありました。身體的の差は又よく現はれて居るものでありまして、背の高い子も低い子もあり精神的身體的共に不平均でありました。特に身體的缺陷の有つた子供は二年三年になつても其の差が中々に除かれないうで、其の身體的缺陷の爲に精神的にも影響を及ぼして、卒業するまで人の後につき、一生を劣等な者として過さなければならぬ者が多いのであります。いつも人に壓制せられ人に服従して行かねばならないのであります。女史はこんな子供達を見まして非常に同情に堪へず、之れはどうしても學齡以前の教育に缺陷があつて、それが平等に行はれない爲に起る事であると考へました。即ち其の學齡以前の教育を改めて一年に入學する際にどの子供も等質である様にしたいと考へまし

た。そして先づ彼は貧民窟を視察に出かけました所、其處は又實に／＼悲惨な生活を致して居りましたから女史は大層驚いてしまひました。

彼の住んで居りました所がイーストエンドの貧民町の近傍でありましたから、妹と二人で其處へ出かけて参りました。其處の貧民町に住む人々は皆貧民のどん底にあえぐ人のみであつて子供の大多數は病兒でありました。爲に女史は學齡以前の教育をもつと改良するべき點があると考へて居りましたが、此れでは教育等といふ事よりも、先づこれ等の病兒を疾病から救つてやらねばならないと考へたのでありました。そして先づ病兒救濟の事業に向ふ事と致しました。かくて僅かばかりの家を幼兒治療院にありました。極く小規模な物で三坪位の室が一つでありましたが何よりも之れが急務であると妹と二人で其の仕事に従事致しました。看護婦も自分の知つて居るもので極く僅の人のみでやつて居りました。ところが次第／＼に幼兒の人数が増し又重病患等も起つて來ますので遂に専門醫を雇つて行ふ様になりました。かくて治療院を開きながらも女史と妹の二人は常に周到な觀察と研究を怠らずに進めて居りました。

が其の中に或一つの事を發見致しました。それは早く治療に來るものは早くなほつて歸る事が出来るといふ事と、又治療院に於て全快し醫師や兩親の承諾の下に歸つた者も又暫くすると、其れと同じ病に胃されては入つて來る事とであります。大多數の子供がそうでありますから二人は更に幼兒の觀察より

も其の家庭に於て子供達がどの様に取り扱はれるかを見なければならぬと思ひたちました。そこで二三の家庭に立ちいつて暫く其の生活状態を見せて貰ふ事に致しました。所が實に驚かざるを得ないのでありました。衛生的の方面は全く零でありまして、治療院で折角行つた事も家庭に於て正反對の取扱を受けますから、全く効力を失ひ治癒つた病を又引戻して來るのであります。其處で女史はこれには先づ家庭の母たる人を教へる事が必要であると考へて、母を教育したならば衛生的にもつと發達して一度全快した病に又冒される様な事はなしになるであらうと思ひました。然しこの計畫は失敗に歸しました。色々苦心を致しましたけれ共遂に母の教育は其の効果を見る事が出来ませんでした。

## 三、

二人は此處で大いに考へて治療院の様に一時的のものでは到底間に合はないし、そうかと云つて又家庭を改良する事は出来ない事でありますから斷然治療院を廢し、子供を預る所として一番家に近い子供を四五人程預り自分の理想通りに家庭的に衛生的に扱つて見様と致しました。そして今までの治療院の治療室を保育室として變更いたしました。勿論立派ではなかつたけれ共其處に相當するだけの設備と裝飾を施しました。普通何處の幼稚園でも保育室といふものは設けられて居りまして其の室には色々な設備裝飾がしてあるのが常であります。マーガレット女史は先づ其の預つた幼兒の食事の仕方着物の着方

から教へて、幼児の這入る爲の風呂場、氣樂な生活をするに適當な椅子裝飾等をもうけました。そして衛生的の理想及び幼児保育上の理想を出來得る限り其處に實現し發揮して幼児を保育して參りました。所が其の効果が非常によく表れて來ましたので、段々と遠方の方からも預つて呉れ、預つて呉れと言つて來る様になりました。其處で今までの保育室ではあまり小さいので、一九〇八年に増築をなすに至りました。そして現在でも其のまゝの物が使用せられて居ります。

私も昨年英國巡遊の節行つて見て參りましたが、今日では滿二歳から七歳までの子供が三〇〇人程這入つて居り、其れに保母が四五人、極めて堂々としたもので大勢の子供が實に愉快想にたわむれて居りました。其の保育室の作り方を申上げますと砂場の一部が保育室の中にはいり込んで居て、南の方が全部開いて居り、其の前が少しばかりの庭になつて居ります。そして日光が丁度砂場の終りの所まで這入つて來て、どこから庭でどこから室内か、はつきり區別のつかない様になつて居ります。

これはマクミラン女史が體育を重んじて日光に浴する事の必要を認め、又幼児を自由に遊ばすといふ考へが實際的に現れたものであると考へられるのであります。風呂場は二歳の子供は一人宛入るもので其れが三つ程あり、三歳以上の子供が入る爲の風呂が五つ程あります。毎日午後になると御風呂が湧き二歳の子供は保母が一人づついつて入れてやり、二歳以上の子供は一つ風呂の中に四五人づつ這入つて大きい子は小さい者の世話をしてやる様になつて居りました。即ち女史は精神的方面に於てはあまり高

唱は致して居りませんが、然し之れを無視して居るといふのではありませんで精神的方面にも身體的方面にも注意致しましたけれ共特に身體的方面に力を入れて衛生上の事に重きを置きました。そして身體上の缺陷から精神の方面に影響を及ぼさない様に、又一年に入學の際あまりに差の甚だしくない様にと言ふのでありまして、決して強ひて讀み書きを教へると言ふ様な事はありませんでした。

#### 四、

このナーセリー・スクールの効果の偉大である事と女史の熱烈な其のやり方に父民の勞働者達が動かされてこのナーセリー、スクールの必要を高唱致すやうになりました。そして市役所から市長に申出で、我々と同様な勞働者の住んで居る他地方にも是非是非之れと同様の物を建て、くれる様にと切望したのでありました。それから暫くたつて文部大臣が規則改正をする場合に於てこの事を聞き、其處でこのナーセリー、スクールを參觀し其の必要をいよく認めて、遂にナショナル、システムにする事となつたのであります。

英國には古くから幼兒學校の設備がありました。この幼兒學校はそこいらに遊んで居る子供達は公衆の爲にも邪魔であり又子供自身としても危険であるので、そいふ子供を集めて學校の始の様に教育して見様と言ふ所から起つたものであります。このインフアットスクールは學校の様で、アルファベット



を教へるにはどうしたらよいか又は精神發達の方面にはどういふ風に務めるかなどと考へて居たのであります。即ち知的精神的方面に力を注いで體育方面にはあまり力を入れなかつたのであります。故に小學校の下への延長であつて幼児の本當の要求には適して居ないのであります。英國政府は之れを廢さうとしましたけれ共、英國はもとゞ歴史を重ざる國でありましたから其長い歴史を持つた幼兒學校を止める事も又不可能な事でありました。英國の文明は極端な文明でありまして鐵・石炭・コンクリートの力が身體にまで及んで身體が大いに頹廢しつゝあるのであります。大人でも其れでありますから幼い子供達は一層はげしく其の弊を受けて居りまして、年々に體格が劣つて來るのであります。中にも貧民の幼兒に於ては更に激しく殆どが病兒でありました。このまゝで進んで行つたならば國民の體格はますます衰微して、延いては英國の發展にも關係する程でありましたから、各方面の識者は一様に此の方面に心配致して居りました。そこで先づ幼兒の教育からして國家が干渉して幼兒時代から身體を造る事に注意しなければならぬと考へて來たのであります。文部大臣フツシャー氏は自らマクミラン女史の保育學校を訪問して其の起つた動機及び方法を詳しく聽いて大いに感じたのであります。キンダーガーデン、インフアントスクール等と比較して前者が昔を守る事のみに偏して設備等も近代に適應して居ないのに反し、マクミラン女史のナーセリースクールは設備も近代に適應して居り、其動機の如きも前者は唯公衆の爲に邪魔をする子供を集めて守をし教育したのであります。後者は貧兒に對する熱烈な愛

情であること、その行爲の慈善的であることは大に差があるのであります。彼文部大臣が其の後出しした所の法令には

英國全體にこのナーセリースクールを起すべし。殊に大都市の貧民窟に於ては必ず之れを設くべし。それに對して國家は之れに補助金を與へ又地方自治團體は之れに出費をする責任を有するものであると云ふ意味の命令を出しました。文部大臣フツンシャー氏がマクミラン女史を訪れたのは一九一七年でありまして、この法令は一九一八年に出されたものであります。その一九一七年にマゲレットの妹は姉と共によくナーセリースクールの爲に働いて居りましたが、遂にあまりに働が過ぎてこの法令の出ない中に世を去つて行きました。マクミラン女史は此の法令に接しました時に大層喜んで。

「全國にこの學校を設けられ、特に大都市の貧民の住む所には必ず之れを建てねばならぬ」と言はれました事は本當に嬉しい事で御座います。

私共二人のこの事業が此れまでに認められました妹も地下で定めし喜んで居る事でありませうと言つて居ります。

## 六、

このマクミラン女史が妹と共に幼児の觀察から始り、學校以前の教育を考へて特に衛生上の點を力説

したことはその時代が大戦の後であつたと云ふばかりでなく、全く彼の幼児に對する熱烈な愛情によるものでありました。この幼稚園の起つた動機が他の幼稚園の起つた動機と異り全く慈善的であるといふことも又大いに考へねばならない事である 思ひます。モンテッソリー女史は果してどうしたでありませうか。モンテッソリー女史の動機それ自身も白痴の教育から一般幼児の教育に及んだのであります。其點がマクミラン女史の貧兒の教育から一般に及んだ點と同様であります。モンテッソリー女史は白痴の子に同情するの心から行ひ、マクミラン女史も身體の弱い貧兒に對する同情があふれて保育學校となつたのであります。何れも動機は非常によく似てゐるのであります。從來の學校に於て此の様な動機の下に建てられた物が幾つありませうか。特に我が國では外國の物を取り入れて此處がよい、彼處が悪い、と批評し之れに基礎を置いて事を行つて行く事が多く、この二女史の様に心の中からあふれ出た熱情によつて作られた物は非常に乏しいのであります。日本の様に外國のものを取つては如何に之れを日本に適應せしめるかを考へて居る國は非常に少くて殊に文明國に於ては一層であります。皆其の當事者が幼兒を觀察して如何様にすれば最もよく子供に適合するか、どうすれば幼兒が満足するかを考へて行つて居るものであります。一人一人の生徒に我々の全身の情をこめたものが結晶するのでなければ我が國の幼兒に適したものが發見せられ創作せられる事はないのであります。(以下次號)



## 幼児の舞踊について

——近來の傾向を痛心す——

倉 橋 惣 三

近來は、幼稚園で舞踊全盛の觀がある。それについて、いろいろの方から屢々質問を受けるので、私の考へを卒直に述べて見る。

先づ、大體論として、幼児の舞踊そのものについて、私は反對をするものではない。幼児に適するものは何でも幼稚園にとり入れていゝと思ふ見地からして、舞踊も亦これを否定するものではない。殊に或る人達のやうに毛、ぎ、ら、ひをしたりするものではない。踊りといへば事々しく聞えるが、おど、り、度、い、の、は、幼児の本性である。彈力に富んだ運動性の生活、それが幼児生活の大きい特質であつて、ある意味に於ては、幼児はたえず心と體とを踊らして居るといつていゝ。その潑瀾たる幼児達に對して存分におどらせてやり度いところを思へ、それを抑えてならないのは勿論である。自分が幼児達といつしよに、幼児達のやうにおどれないことをこそ悲むことはあつても、幼児達のおどる手とおどる足を、しかつめらし

く止めやうなど、思ふものではない。

しかし、その私として、近來の幼稚園の舞踊全盛の實際に對しては、頗る不安な感を禁じ得ないことがあるのである。

「一」、何ごとに限らず、幼稚園が一つのことに偏し過ぎることは、深く警戒しなければならぬことである。幼兒の生活は極めて廣範な範圍をもつ。變化と多様とは、幼稚園生活指導の格言でなくてはならない。若し何かの一方に偏り過ぎるならば、そのことがそれ自身として、いくらいゝことであつても、幼兒生活としては正常を逸するのである。それも、幼兒自らが、何かの自分達の理由によつて、或る期間一つのことに凝り偏るといふやうな事ならば、強ひて咎むべきではないが、そういう場合としても適當な多様性を與へてゆくことが、幼兒教育者の一つの任務でなくてはならない。況んや、與へる方で一方に偏することがあつたりしては、其の害甚だ尠からずといふべきである。ところがどうも幼稚園にそういう傾向があつて困るのである。昔からフレーベル正統派と自稱する幼稚園で、フレーベル恩物一點張りの教育をしようとしたりしたのもそれである。フレーベル恩物そのものゝ是非は暫く別としても、それに偏して、他の無限に廣い幼兒教育手段を忘れたのは、非常な誤りであつたのである。モンテッソーリが流行すると、その教具を採用した限り、またもや、それ一點張りになつたりした。これも、偏することの弊害をなしたものである。その他何、何、劇場の藝題でも取りかへられるやうに、幼稚園の中

必要項が變遷してゆくのは、またしても行はれた誤りであつた。しかも、それが、その幼稚園の何か特有の主義主張——理論を基礎とした——によるものならば、他人の眞似を許さないことゝもいへるが、世の流行につれられて移つてゆくのでは、見識のないも甚しいといはなければならぬ。馬鹿の一つ覚えといふ俗諺がある。少々失禮ないひ方であるが、そんな感じをさせられることも無いではない。靜かに考へて見ても、そうした偏した方法で、幼兒の全生活の開發が指導出来るものではないのである。

近來の幼稚園の舞踊全盛にも聊か此の趣きがないではあるまいか。甚しいのになると、幼稚園教育即舞踊とでも思つてゐられるのかと見える程、舞踊專一で、その爲に、從來からのいゝ教育法も忘れられましてや、新らしく多種多様のいゝ教育法を發見してゆくことが、全然無くなつて仕舞つたりしてゐる。これでは、舞踊そのものに如何に貴い効果があるにしても、われ等の幼稚園としては許されない偏りである。

殊に、一般の事實として、その流行の要項が、理論的のものである場合よりも、興味的のものである場合に、斯うした傾向が一層容易く、且極端に行はれるやうである。兒童劇の流行が近頃のその著しい一つであつた。兒童劇が盛に幼稚園で行はれた時、勿論、理論的に之れを採用した人も多くあらうがその興味性が與つて大に力あるは少くも否定出来ない。子どもゝ面白がり、親達も面白がり、先生にも面白いとあつては——そして、どこかに理論の背景があり得るとしては——大河を決する様な勢で熱中

せられるのも無理もない。無理もないがそれでは困るのである。その兒童劇は一寸下火になつたようだが——なつて貰はなくは太に困る——が、それに代つて盛になつたのが——少くも社會事實としては——即ち舞踊なのではあるまいか。實際、舞踊は、お話よりも、製作よりも、誰れにでも面白い。少くも派手で楽しい。そこで、その興味が持込まれた以上、或る處まで酔ふ様に、それ一方になるのは勢の然らしめる處だらう。しかし、そう偏しては困るのである。舞踊ばかりで幼稚園が濟むものとは、舞踊そのものでも思つては居まい。誤りは人にあるのである。見識なく、靜かな考へなく、幼兒生活全體の見渡しなく、おどれ／＼で踊りづめる浮いた人の誤りにあるのである。斯うまでされては舞踊の方でも面くらうかも知れない。況んや、幼兒に於ておやである。

〔二〕、分量的に適度な採用をしたとして、次に近來の問題になるのは、舞踊の流派——といつて置くの餘りにまち／＼なことである。勿論、多くの研究者、否創始者によつて、いろ／＼質の違つた舞踊が出来ることは、舞踊そのもの、發達のためにはいとことである。私のこゝにいふのは、それが幼稚園で行はれ方についてである。

今日、幼兒の舞踊について、我國に幾派の別があるかを私は詳しくは知らない。しかし、實際色々の幼稚園で見るところによると、何先生々々々の振付けといつて、随分本質の違つた舞踊が、まちまちにといふよりも、ごた／＼に行はれてゐるやうに思はれる。その一つ／＼の是非は別として、斯うませこ

せに與へられては、幼兒は甚だ迷惑なことであると思ふ、折角一派の主義で慣れたものが、忽ちして全然違つた主義の振りを與へられる。また直ぐに、他の式のものも與てられる。之れでは、それ／＼の式が、其の式で徹底しようといふ効果が互に消されあつて仕舞ふに相違ない。消されあふだけなら罪はないとして、それ以上妙なことにならぬとも限るまい。

それ／＼の式について、私は批評しようとはしない。たゞ、すべての式を、それ／＼の特質に於て尊敬するとして、それだから、斯うしたぢちや／＼の採用のされ方が出來ない筈だと思ふのである。勿論各自の流派に立つ創始者は、それを獨自のものとして主張し、幼稚園にもすゝめられるに相違ない。幼稚園の先生は、その説をよく伺ひ、よく研究して、どれか一つを——少くも或る期間は——續けなければならぬ。他所で用ゐられて居るからとて、一寸眞似て見るといふ風なしかたは禁物である。但し、一度始めた式は、やめてはならぬといふのではない。別の式の方に賛成する處が多ければ、それを採り入れるべきは言ふまでもない。たゞ其の時は、その新しい方一式にすることである。兎に角、舞踊は其の創始者に於て、一定の藝術的根據をもつものである以上、みだりに八宗兼學を幼兒にさせることは甚だよろしくない。

この點が近來随分無茶苦茶の様である。中には、手を動かし足を動かしさへしてゐれば、皆一つのものだと考へて、頭から各流の差別をしてゐない人もあるらしい。幼稚園の先生自身がそんなでたらめ



は、始めからお話にならない譯であるが、兎に角困つたことである。

苟も、何先生の式を學び、それを我が幼稚園に採り入れる以上、充分その先生の主張を理論的根據に於て究めてからでなくてはいけない。大切な我が園の幼兒に與へるものではないか。自分で譯の分らない踊り方などを、たゞ型で覺えて採り入れたりしてならうか。子どもに見せる繪本一冊、あなた方は周到に、神經質に研究し撰擇なさるではないか。幼兒をして踊らせるものを、人の噂さや流行の評判位で手あたり次第に採り入れて來ていゝものであらうか。それも先生方が習つて見られるは勿論いゝ。いくらでも習つて見て研究——覺えるのでなく、先づ其の價値を考究するのである——されるがいゝ。しかし、自分が習つて見ることゝ、幼兒に與へることゝは違ふ。うつかりしたものを與へてはならない。

私は此點を考へる時、なんとなく、ぞつとする様の氣がする。近來の傾向が、幼兒の舞踊に對してたゞ之れを用ゐるだけで無考究、無批判でやつてゐる先生方がありはしないかと思ふからである。若い方に殊にそれが多いのは己むを得ないとして、ほかのことでは、よく幼兒教育の本道の分つてゐる経験家で、舞踊だけには、まるで無見識な採用のしかたをしてゐる人があつたりするらしい。舞踊全盛の勢とはいへ痛心にたえぬことである。

兎に角く、舞踊については一園一式、一流一園といふことにし度い。ごもくめしダンスは幼兒の腹をこわすものである。

〔三〕、以上、近來の傾向に對し最も深く感ずる心配の點を遠慮なく言つて見たのである。この二點をよく注意して頂けば、まづ大過なきを得ようと思ふ。しかしまだ、もう少し内容に入りて質問を受けることがあるので、それを簡單に答へて置かう。つまり、私は、幼兒には、どういふ舞踊がいかといふ間に對して、極く大ざつばな標準を立てゝ見るに過ぎないが。

(イ)、幼兒の舞踊は、藝術には相違ないが、すべての他の幼兒の藝術と同じく、所謂原始藝術に屬するものである。原始藝術は純生命の藝術であり、文化藝術のやうに、美として分化した藝術でもなく、型として洗練された藝術でもない。そこで美ではあるが美そのものが浮き出てるものでもなく、形はあるが型としての嚴しいきまりが既成せられてゐるものでもない。殊に舞踊に於て一層それが甚しい。心のリズムに踊りはするが、美のために踊つてはゐない。表出の形は持つてゐるが、型の味にまで築かれてはゐない。従つて、幼兒の舞踊は全生活的で自然で、自由なものでなければならぬ。丁度、野蠻人といはれる民族の中にある舞踊に類するものなのであつて、文化の發達した藝術的に洗練せられた舞踊とは違ふのである。

(ロ)、野の舞踊は運動としては、筋肉の遠心的運動を主とするもので、文化的舞踊のやうに、筋肉の求心的曲折を主とするものではない。手の舞ふ儘、足の躍ぶまゝ、伸びてゝ伸びてゆく處に、生命の溢れ其のものゝ味が味はれるのである。踊るものにも、看るものにも、そうなのである。とい

つて亂舞といふ譯ではない。平均と均齊は生命が自然に有して居る法則である。その生命の自然の法則だけを法則とせる舞踊なのである。

殊に此點に就て一考して置く必要があるのは、我國に於ける古來の舞踊は非常に舞踊藝術として發達してゐるものであつて、藤間にしても花柳にしても、山村にしても八千代にしても、關東と關西と多少の違ひはあるにしても、舞臺のおどりとして、座敷の舞ひとして、洗練の極緻に入つてゐるものである。従つて、我國で昔からいふ舞踊といふ名には、之等の至妙繊細な藝術としての舞踊の意味が付き易い。之れは幼稚園で用ふる幼兒の舞踊の發達のために、却つて差支へたりすることである。同じく踊るのである、幼兒の踊り度い踊りは、そうした純藝術の味に凝つた踊りではない。技巧の極緻で筋肉運動に味を出す。江戸風の優美な舞踊ではない。勿論、昔でも今日でもあるやうに、子どもの時から踊りを仕込んで置くといふ意味の場合は、全く別の見地に立つことで茲には其の問題を離れて、今日吾々が幼稚園教育の手段として採り用ふる舞踊は、それとは全く別個の見地が出た、別箇の世界のものなのである。

(ハ)、もう一つ、野の舞踊は、生命の樸素な運動として、ハーモニーよりもリズムを王にする。藝術としては言ふまでもなくハーモニーの方が高級である。しかも、幼兒としては音樂に於てそうである如く運動に於てもハーモニーよりもリズムを求め、またそこに満足してゐる。進み過ぎたハーモニーは却つて幼兒には無理なことになるのである。勿論ハーモニーが少しでも入つてはならぬといふ譯ではない。

簡単なハーモニイは、幼児も喜ぶものであるが、ハーモニイを主として發達した舞踊が、幼児にも適するものと見たら、幼児として買ひ被られて迷惑するのである。こゝで、舞踊に於て、幼児のものが、成人や少女のものと大に差別せられる。況んや藝術家の舞踊とは全く別のものである。

英國や米國の幼児の舞踊は、インチャン・ダンスなどを基準とするものが多い。之れ皆リズムの舞踊である。また同時に、野の舞踊である。我國の近來の或る傾向は、之れと全く違つた方向に向つてはゐるまいか。過ぎたるは及ばざるが如しとは、こゝに最よく當てはまつた教訓である。

(二)、だから、幼児の舞踊は、要するに撲素、簡單、形は自由、味は野趣、優美よりも潑刺、技巧よりも自然、であり度いのである。そういふものであつていふのでなくして、そういふものでなければならぬといふのである。

〔四〕、尙ほ餘計のことを一言する。幼児の舞踊は全然、幼児自身のためである。見物人のための藝ではない。故に、若し、眞に幼児に舞踊を與へる意味を解するものならば、つとめて、見物人を避けてやらなければならぬ。假りに見物人があつても、それは、いつしよに踊る見物人でなければならぬ。入りかはり立かはり、舞ひあひ踊りあふお互同志でなければならぬ。見てゐる間も、手びようし、足びようし、聲を合はせて唱ふ連中ではなければならぬ。見物人としての見物人などは、幼児の生命の舞踊の神聖に對して、寧ろ怪しからぬ無禮ものである。幼児のために其の神聖を保護する人々は、そうい

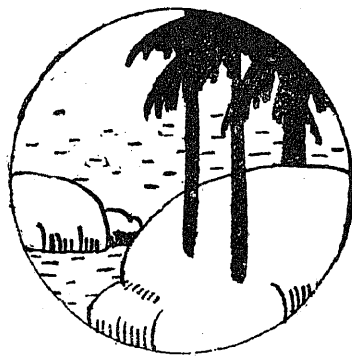
ふ見物人を追つばらつて踊れなければならぬ。曰く、幼児舞踊會。曰く、幼児演藝會、咄々、なんの  
ことだと腹立たしくなる。幼稚園の遊戯室に觀覽のさじきを造つてゐる處があるとかいふことを耳にし  
たことがあるが、願はくは、われ等の幼稚園教育界のために、私の耳の聞き誤りであつてもらひ度い。

(一四・八・二十二)

## 幼い兒を護る文部省令が出る

——幼稚園と保育所を一緒にして向上策——

現今我國に於ける幼稚園の數は約一千で滿三歳から學齡までの幼兒を希望者に限り  
收容してゐるが最近文部省ではこれが改善を目的として新に幼稚園令を發布する意向  
で目下協議研究を進めてゐる。この新令の發布は別に強制的といふ意味ではなく、た  
ゞ勅令を以て畫一を圖る事になるらしい。當局としては現在の託兒所を今少し組織的  
にし幼稚園をもつと一般的なものとして將來は兩者を合體したものを幼稚園と稱せし  
めやうとの希望である。今度の改善の燒點は保母の資格を向上せしめて對世間的信用  
を高めこれが待遇を改善して恩給年功加俸の規定を設くるのが幼稚園改善の第一歩と  
言はれてゐる。幼稚園を少くとも現在の小學校と同様に全國的に普及せしめこれに相  
當の資格を與ふることも急務とされてゐる。(東京朝日による)



## 秋の圃場

第六臨時教員養成所教授

竹島茂郎

秋になると萬物が凋落して誠に物寂しいものであると詩人は云ふが、秋は必しも萬物が凋落するとはかりはきまつて居ません。着物で云へば夏物は仕舞はれて冬物が出て来ると云ふ格であります。幼稚園の圃場も實に衣更へせねばならぬ時期に立ち至るのであります。早速に種子物の御用意が肝要ですから、御紹介しませう。

秋種子を下して冬から春の圃場を賑はすものは其の數が甚だ少くありません。先づ農作場につい

て申せば次の様なものがありませう。

(1) だいこん…之は早速種子を下さなければなりません。早い程立派な成績をあげることが出来ます。農家では土用あけ、即ち立秋(通常八月八日頃です)にハヤ種子を下します。勿論早いと暫くは害虫驅除に努力せねばなりません。

二十日大根の様な時無でも夏は餘り成績はよくありませんが、兎に角短期速成的のものよりも堂々たる態度の大型晩成の實例を示すには「ね

り、**みだいこん**」とか、「**さくらじみだいこん**」とか、「**みやしげだいこん**」とか云ふものは適當でありませう。細くて長い「**もりぐちだいこん**」も忍耐の具體化した様なもので、興趣をそゝりたてます。

(2) **かぶら**…之も中々すてがたいものであります。可愛い子供の頬の膨らむ様に毎日膨らんで來るのが見られて面白いものであります。されは舶來種の例の「**こかぶ**」は時無しで且つ速成的であるだけ、比較的興味は少ないものであります。先づ**聖護院蕪菁**を御推薦したのであります。

(3) **あぶらな**之は春になつて花を十分おもちやにさせる爲に種子を下すのであります。「**積善の家**には餘慶あり」とか、「**蒔かぬ種子は生えぬ**」とか云ふ言葉が實際植物を作るときに、知らず識らずの間に理解されます。生物界のことは時の要素が必用であり、一步一步に因果の關係が連鎖

をなして居るのでありまして、是等の奥深い眞理を如實に體驗するのが圃場の活動であります。(4) **漬菜類**…此の中で山東省から傳はつた**山東菜**とか**白菜**とか**體菜**とか云ふのは、夫々顯著な特徴があつて、面白いと思ひます。

(5) 「**そらまめ**」と「**えんどう**」…之も是非蒔いて頂きたいと存じます。「**そらまめ**」の葉は口に入るとホ、ツキを作ることゝ出來ますし、又春になると手輕に**青そらまめ**の御馳走も出來ることでありませう。

「**えんどう**」は花も實も宜しいものであります。スイートピーは西洋の「**えんどう**」です。之は花はよいが實はだめです。**丁度西洋**「**さくら**」と反對であります。

(6) **大麥と小麥**…之は普通「**さつまいも**」を收穫したあとへ蒔くものでありますから、もつと先です(列擧の順序は**丁度蒔く時期**の順序に致し

てあります。

麥稈細工の材料も學校で作つたものとあれば、多少品は劣つて居ても最負のつくものであつてちつとでも良い玩具を作らうと努力することでありませう。

尙ほ草花類の栽培は次號に譲つて、こゝには適當と思はるゝ種類の名を幾つか擧げることになります。

はるしやぎく

やぐるまぎく

ひえんさう

むしとりなでしこ

けし

ひなげし

スキートビー

こばんさう

ひめこばんさう

パンジー

ロベリヤ

チユリツブ(球根  
ヒヤシンス)

(終)

# 新任の一日

— 瓜生會幼稚部 —

松 木 初 枝

吞氣な學生生活の幕を閉ぢて、實社會へ出でんと、力んだのは今年の四月であります。豫め掘先

生及川先生、の御注意は與へられてゐるものゝ、皆各自思ひくゝに、美しい理想の世界を若い胸に



つゝんで、のり出したのでありませう。私も其一人なのであります。

いよ／＼奉職といふ事になつてしまひました。

私の奉職すると云ふ幼稚園は、其時新しく建築したばかりで何にも設備等といふ事もしてありませんので同じく、一緒に奉職した友人(同期卒業生)小川さんと二人で、首をひねつて、取りあへず設備にとりかゝつたのであります。

然しこれは大抵女高師附屬幼稚園にならつて、又及川先生の指導を受けて色々そろへました。鬼にかく一週ばかりかゝつて、漸く殺風景であつた建物が、幼稚園らしく思はれる様になりました。

五月一日、いよ／＼幼稚園開始といふ段になりました。

應募された子供たち、それに父兄が物珍らし想にぞろ／＼入つて参ります、今迄この附近に幼稚園がなかつたのですから、(場末の町と云ふ様など

ころであります)、確に、すべり臺、砂場、ピアノ等が珍らしかつたのに相違ありません。

簡単な開園式が行はれました。この時、私たちは、生徒から初めて、先生——職員といふ本物にうつり變つたつもり、まあ及川先生の様になつた積りでゐたのであります。

「今度幼稚園を開きますについては、いゝ保姆さんを、得るといふ事について、非常に困りました。幸に東京女子高等師範學校の及川先生とお仰る方が、お世話して下さいまして、大變よい保姆さんを得たのであります。」

園長がこんな言葉を發した時、私たちは、ぎくつとして、息づまる様な思ひになりました。實際大變によろしい保姆さんであつたならば、「はあ成る程」と思つて、きつと、脊中の筋肉が、後の方へそりかへつたかも知れませんが、私たちは、其の反對でありました。思はず目を白黒させ

背後の方で手をにぎりあつたのであります、之はどうしませう——しつかりしませうね」といふ瞬間に出た二人の合づであつたのでせう、父兄等が退散後、私たちは、お互に、かほを見合せて、ひとつと胸をなで下ろしました。

「いよくもつて半先生ではなくなつたのね」

半先生と云ふのは保育實習科に居た頃倉橋先生がつけて下さつた私たちの名稱なのであります。

「えゝ本先生になつてしまつたのよ。しつかりしませうね。」

「だけどやつぱりお茶の水が、戀しくなつてしまつたわ」

「えゝそりや何と云つたつて、お里が一番いゝわね」

こんな工合に私たちが、ぼんやりして感嘆詞をもらしてゐる中に、八九人の子供達がよつてきましたので、小川さんが、ピアノをひき出しました

「ねピアノにあはせて、おてゝをたゝきませう」と私が先にたつて手拍子をうち初めました。するとこはいかに、ビシャ／＼とやたらにうちつゞけて、果はピアノの音まで聞えなくなつてしまひました。

小川さんと私とは、殆ど失望した様な、眼をみはつてゐました。

「ねみんな、こつちへゐらつしやい、お話してあげませうね」と云ふ聲の下から。

「おはなしなんて大きらいだよ」

「あたしだつて大きらいだ」

「おはなしなんかきゝたかあないよ、そんなもの」  
 またも私と小川ちゃんとは今にも泣き出しさうなかほをしてしまひました。

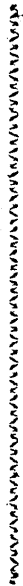
「あゝやつぱりお茶の水がいゝわねえ、どうしませう、しつかりしませうね」。

エデンの園の様な、子供の世界をと、思込んで

ゐた私達は、遂に先生のお言葉も忘れて、第一日  
で其の美しい夢を被られた様に思ひました。

けれど唯實社會へのり出した其のめまぐるしさ  
で、ぐずぐずしてゐる間にもう一學期間は過ぎて  
しまひました。あの最初の日よりも、もつとく  
驚かされた事がどの位あるか知れないのでありま  
す。しかしこの一學期間のうちに知らずくお里

戀しと、あこがれてゐたお茶の水の様に、子供た  
ちをしたはしく思ふ様になりました。尤も私たち  
にも社會へ對しての不満がありますから堀先生及  
川先生方は、常に私たちの不満のためところとな  
られるでありませう。兎に角新任の所感を述べて  
お笑草といたします。

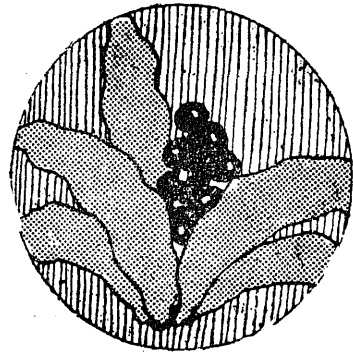


○、たゞ一人いつまで稻を刈る人ぞ

虚 子

○、手を引いて踊のにはに走りけり

虚 子



## 幼児の活動

堀 七 藏

### 一、活動とは

活動とは生活し運動するといふ意味であります  
が、また活潑に運動するといふ意味であります  
か。活動寫真などの活動は生活するが如く動く  
といふ意味であります。

さて生活體以外のもの運動するものがないか  
と申しますと何でも皆な運動いたしませう。如何  
なるものでも、他から力が働くと運動することは  
物理學の説明を待つまでもなく、明白なことであ

ります。日常そこらにある人工物でもまた石や砂  
の如きものでも、自分で動くことは出来ませんが  
他から力が働くと動きます。力の強弱の度に應じ  
て、運動に遅速の差はありますが、兎に角運動い  
たします。しかしこの運動はその原因が運動體の  
外にありますから、所謂他動であります。所が生  
活體の運動は他から力が働かなくとも、よく運動  
いたしますから之を自動と申します。そして活動  
といふ言葉にもこの自動の意味が加つてゐる。活

きてゐて自ら動くといふ考が多分に含まれて居ることは勿論であります。

## 二、自動とは

同じく生活體でありまして、皆自動するものではありません。植物は昔から生活し成長するが運動するものでないと考へ、動物が生活し成長しまた運動するのとは大に異なるものとなしたのであります。成程植物は生活し成長してゐますが自らが移動するものではありません。風が吹いたり、人が移植したりすればその場所を變更したり、また一部分運動をなすのであります。動物の如く自ら運動するものではありません。しかし廣く植物界を見渡しますと盛に自ら運動するものであります。花粉は虫に運ばれたり風に吹飛ばされて雌蕊に附着するのは、純然たる他動でありませうが、柱頭に附着して後花粉管を伸し、子房内の胚珠に達し受精するに至る運動は明白に自動でありませ

う。またオジギサウやマウセンゴク等の如く葉などの局部的に運動をなすものがありませう。バクテリア、珪藻の如く全體として運動をなすものもあります。吾々が日常目撃するヒマハリの花は日光によつて運動するし、ネムノキの葉は雨などが降つたり夜になるとつばみまします。タンポポの花は夜や雨の降るときつばみましますし、カタバミの葉は夜間閉ぢます。注意して植物を検すると自身で運動するものが結構澤山ありますので、自動は動物の獨専ではありません。しかし植物に自動するものがあるといつても、少數であり、また局部的の運動で、動物界に見る如く自動する譯ではありません尤も動物でも海百合や珊瑚の如き、また海綿やイソギンチャクの如き固着してゐて、全體として運動せぬものもありますが、總じて動物は植物と異り全體として自動することは確であります。

## 三、植物の運動

植物の運動は皆植物體の内部に起る原因によつて生ずる自發的運動でありますが、多くは或る刺戟に誘起せられて一定の方向に進行する刺戟運動であります。化學的刺戟によつて精虫は運動し、又酸素の刺戟水濕の刺戟光の刺戟、等に應じて全體の運動をなすものがあります。また光を一方より受くる莖、葉が光の來る方向に屈曲し根は重力の刺戟によつて地中に浸入するのであります。

タンポポ・サフラン・チユリツブ・ハス等の花の開閉する運動は温度の變化又は明暗の差によつて起ります。またマツバボタン・ヤグルマギク・サギゴケ等の雄蕊は何か觸れると運動しモウセンゴケイシモチサウ等の食虫植物の葉面に生せる腺毛は昆虫その他の刺戟によつて屈曲するものであります殊に面白いのはブラジル産のオジキサウ、一名ネムリグサと稱する植物は打撃、寒熱、氣體及び液體の接觸等の刺戟を與へると小葉は上面にて閉合

し葉柄は下垂して恰もおじきするが如くであります。またカタバミ・ナンキンマメ・ウマゴヤシ・インゲンマメ・ネムノキ等の葉は暗所又は夜間に小葉が閉合するか又は下垂して所謂就眠運動をなすのも亦明暗の刺戟によつて起る自發的の運動であります。かくて植物の運動は自發的といふもの、他からの刺戟によつて起り、しかも特定の運動器官とてはないのであります。

#### 四、動物の運動

所が動物の運動になりますと著しく進歩してゐます。最下等の動物として有名なるアメバは偽足を出し、體質はその偽足の方に漸次流れるが如く、尺とり虫の如き運動をする。若し進路に障害物があれば之を乗り越えて進むものであります。同じ原生動物たる夜光虫・ザウリムシの如きものになりますと鞭毛とか纖毛とか稱せられる運動用の器官を備へてゐます。これより高等な動物になります。

すと、多くは特別な運動器官を備へて、それぞ  
れ游泳したり匍匐したりまた歩行し飛翔するので  
あります。そして動物体内に生ずる活力によつて  
運動器官を働かして移動するもので、眞の自發的  
活動と稱すべきものであります。

## 五、水中の運動

さて水中に身體を支へつゝ前進する方法は游泳  
であります。水中に棲む動物の比重は略ぼ水と相  
等しいから是等の動物が水中に於て身體を支持す  
るためには殆ど力を要しないのであります。しか  
し前進する爲には重き水の抵抗に打勝ちて之を押し  
分けねばなりません。この抵抗は衝突面(運動の方  
向に直角なる物體の最大切斷面)の面積及び速度  
の自乗及び水の密度の積に正比例するものである  
ことは物理學が教へる所であります。それで水の  
抵抗を成るべく少からしめるには體形を所謂紡錘  
形にして先端を尖らす方がよいのであります。注

意して水中運動をなす所の動物を見ると、多くは  
先端を尖らせて水を切るに便にしてゐることを直  
に發見するのであります。而して水中で運動する  
カモ・オシドリを見ると、蹼のある趾を擴げて水を  
後方に押しその反動で前進いたします。そして再  
び水を押すために趾間を狭ばめ水の抵抗を少くし  
て舊位置に復するものであります。またイカの如  
きものでは頸のところから外套膜内に水を入れ、  
その水を外套膜の收縮によつて漏斗口から噴出せ  
しめ、その反動で進行するのであります。それで  
イカの足は運動の器官といふよりも、捕食の道具  
であります。所が魚類の運動になると是等よりも  
一層進歩したものであります。カモなどの足では  
運動器官を舊位に復せぬと次の運動が出来ず、こ  
の運動器を舊位に復するために筋肉の力を全く空  
費せねばなりません。所が魚類の運動にはこの筋  
力の徒費がないのであります。體の中軸に骨格が

あつて、その兩側には之を左右に屈曲せしむべき筋肉をつけ、扁平なる尾と共に體の後半を左右に曲げて水を押し、以て前進するのであります。即ち右に曲げて水を押す、左に曲げて水を押して前進するのでありますから、鰭を使つたときは餘程速に泳ぐことが出来る譯であります。ポートのオールよりも和船の櫓は押す時も戻す時も何れも水の反動によつて船體を前進せしめ少しも力を空費しないのであります。人間が精虫時代には魚類の如き運動を営むのみであるが、特に水泳をなす場合には蛙の如きまたカモの如き運動をなすのであります。身體の比重が略ぼ水に等しいから手足を動かせば容易に浮び、手足を蛙の如く動かせばよく前進することが出来るのであります。

## 六、固體上の運動

廣く固體上の運動と申しますけれども、主として陸上の運動のこととして考へると理解し易いの

でありませう。固體上の運動では固體に接する體部を以て體重を支へつゝ前進するから游泳に比して體を支へる丈の力を多く要するのであります。それで脚は先づ體重を支へる役目をせねばなりませんから相當に丈夫でなくてはなりません。蚊の脚の如く細くては役立ちません。蚊細い脚では十分に體重を支へることが出来ませんから、嬰兒は脚を持つてゐながら立つことが出来ないであります。彼は脚を局部的に動かしてその筋肉を發達せしめ漸く體重を支へ得るに至つて立つことが出来ます。しかも重心が基底より外に出易いから初めは物につかまらねば立てないのであります。嬰兒は立つ前に坐り得るのでありますが、これも上體の體重を支へるため十分の筋肉が發達して重き頭をせた脊柱を支へることが出来ねばなりませんから一定の時期を要するのであります。カタツムリの如きは腹足で體重を支へ、その筋肉を交互



に伸縮せしめて前進し、ミミズ・ヒルの如きは體の腹壁を地面に接して體重を支へ體壁にある縦走筋と環状筋とを交互に收縮せしめ或時には前端に於て吸着くが剛毛で體を支へて體の後部を引寄せせるが如くにして體を縮め、或時には體を後端にて支へ押伸ばすが如くにして體を伸し、一伸一縮をなす運動するものであります。この運動が所謂匍匐であります。いもむし毛虫の匍ふのも是等に類似してゐるし、嬰兒の匍ふのを見ても餘程この匍匐に似てゐます。疊や布團の上に體を横へてゐるから、立つときの如き筋肉の發達を要しない。只手や肘で引かゝり足で物を押して進み、進んではまた引かゝり押すことを繰返して運動するので最も原始的の全體運動であります。それで匍へば立て、立ては歩めといふ親心も自然に起るのであります。

## 七、歩行運動

兎に角匍匐は主として筋肉のみによるから固體上の運動法としては充分なるものでなく、その動作が遅緩であります。堅き固體上を迅速に移動せんとせば堅き骨格を以て體を支へつゝ、堅き固體を押しその反動によつて體を前進せしめねばなりません。節定動物では外骨格と稱し、堅き殻が體の外にあり、脊椎動物では内骨格と稱し、骨格が體の中軸にあります。そして運動器官たる脚には數個の關節がありますから、骨格に附屬する筋肉の收縮によつて骨を動かし、關節部に於いて脚を屈伸しその際地面を押し、體を前進させるのが歩行であります。そして歩行の動作の迅速なるものは走行で歩行の動作を稍々變じたものは跳行であります。

## 八、人間の運動

既に述べた如く匍ふことは原始的で、四つ匍は嬰兒の第一に行ふ所であります。次に立つこと。これは中々困難な動作であります。牛馬の如く四

本の脚で立つとは比較的で容易で生れて一二時間たては牛の仔はよく立ち、倒れさうではあるが歩み出すものであります。二本の脚で立つて歩むといふことは立つことの困難の上に體重を一本の脚で支へて、しかも他の脚の筋肉を働かしてそれを移動せしめ更に交互に之を續けることで、非常に困難が加はるのであります。しかし現今人間の歩行位進行した機械的運動はありません。更に一本脚で歩行することは一層困難になる。幼兒の歩行運動を觀察すると完全に歩行し得る時は滿二歳以上にならぬと望まれない。滿四五歳になつてもまだヨチ／＼するものであります。更に一本脚で歩行すること所謂チン／＼することになると滿三四歳にならねば出來ないのであります。それでいゝの跳躍運動にはそれ／＼難易があるもので十分研究してどんなものから始めるかを考量せねばならぬ。走つたり跳躍したりする運動では或瞬

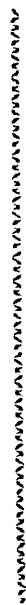
間身體を空中に支へる必要があるが人間は身體が大きくて重く、扁平な廣き面積の部分（鳥などの翼に相當するもの）を持たないから瞬間だけでも空中で體重を支へることが容易であります。況んや空中運動は思もよらぬ所であります。今日では人間は知能の働で飛行機を工夫し飛行船を案出して空中を飛行してゐますがこれは人間の體力で行ふものではありません。

## 九、活 動

さて幼兒の活動につき更に考量いたしますが、幼兒の活動は非常に旺盛であります。勿論その活動力は幼兒の體内に於て行はれる新陳代謝の作用によつて自然に生起するものでありませう。幼兒はこの旺盛なる活動力を働かして筋肉を活動させます。消化器、呼吸器、循環器等の如き器官の運動は體内に於ける刺激によつて旺盛に行はれますがこれは普通活動の中に入れません。また幼兒で

は五官を過して外界より受くる刺激によつて起る種々の反射運動も意識的運動も非常に活潑であります。更に體內に起る刺激によつて幼児は靜かにして居られない。手を動かし足を振りいろいろの運動をするものであります。これは一定の發達をとげた成人と異り十分なる筋肉の發達を促がす必然的要求より來るもので幼児の本性とも幼年時代の特徴とも考へられるのであります。そして幼児の活動力は種々の本能的活動となつて發現するのでありますから幼児教育は須らくこの活動力を利用して正常なる活動をなさしめ身神の十分なる發達をなさしむべきものであります。決して活動力を抑制せんとするが如き考を起したり幼児の活動を減殺せんとするが如きことがあつてはならぬ次第であります。「この兒は靜であります」とか「大人のやうであります」とかいつて喜ぶべきではありません。それは幼児の本性を失つたもので寧ろ

病的なのでありませう。また「靜かにしてお聴きなさい」「チットして手を膝の上に置いて」などと要求することは幼児の活動性を無視した注文でありませう。



○、牛部屋に蚊の聲暗き殘暑かな

芭蕉

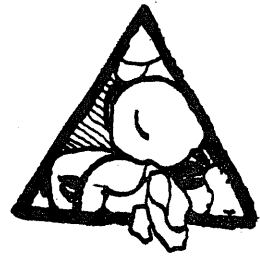
○、待宵や女あるじに女客

蕪村

# 育 兒 叢 談 (三)

## — 第六 子 供 と 花 壇 —

花作りが子供に何故よろしいか



東京市公園課長井下清氏が東京市社會教育課母の會に於て述べられたところ、之を 國民新聞が婦人夏期講座に載せたもの幼兒教育に従事するものが參考とするに足ると思ひますから更にこゝに轉載いたします。

まづ、何んのために子供に花壇を作らせるのかこの意義を考へることは、最も大切であつて。

この出發點が解らないと

土いちりなんかさせない方がいゝ着物ばかり汚して——といふ事になります。子供の遊戯娛樂の類は多種ありますが、これを大別すると二になります。第一、室内的のもの、第二、戸外的のものこれです。更に他の方面から大別すると、その遊戯娛樂に熱中させるものと間斷なく興味を惹かせ

るものとあります。花を作るといふことは、申す迄もなく戸外の仕事であり、同時に亦間斷なく興味をかせる類の娛樂であります。戸外の仕事である點が第一に

花を子供に作らせるによい

ところで、子供には太陽の光が絶対に必要です皮膚に日光を受けることは、子供の健康な生長を助けること甚大なものであるからで、折り紙、積木の類は一面結構な點もありますが、風、陽のな

い所に遊ぶことは長い時に亘ると、子供の健康上餘り感心いたされません。同じ戸外の遊戯でも、運動となると子供はそれに非常に熱中しやすく、運動が悪いと云ふのではないが、砂遊び、水遊び等は、僅の間だけ子供を熱中せしめ、注意力を集めるには可とすべきも、程度の問題で、これも長くになると悪い結果を生みます。

#### 特に競争的の遊戯娛樂と

なると、自由に放任してをいてよいかどうか疑問であります。併し乍ら、園藝を娛樂と致しますと、自然が育てる植木が人を補助するので、どんなにあせつた所で種から急には植木にならず、植木は急には花を持ちません、急いで肥料を無闇にやつたりなどすると、忽ち枯れて成功しないことになります。故に植木には子供を熱中せしむ可き要素が殆どない、これは面白い點であります。園藝によつて受ける利益の一つは、自然の知識を得

る點にあります。學校に於ても色々

#### 理科の知識も與へられます

が、花の形がどう、色がどう、葉の出来具合がどうと、先生方が教壇の上で云つたからとて、子供には却々解るものではありません。それが實際に子供自身が草花を一つ植ることによつて、土、肥料、害虫、植物とはどんなものか、歴然と解つて來て、自然教育の材料として最も適したものであります、更に人といふものは、美を要求し、美を觀賞したがるものですがその優れた觀賞力は天分にもあるでせうが、子供のうちから養成された觀念によつて異なるものです。赤い花の下に黄色い花を植え

#### 紫色の花を緑の葉の間に

點在させ、子供自身に花を植させることから、色彩及びその配合の觀念を與へるのは、極めて面白い方法かと思はれます。

## 『僕のお庭の花』得意の子供の叫び

又、一面から云ふと現今の都會生活者は、自然から餘り遠ざかりすぎてゐます、心には緑の野に咲く白い花、すが／＼しい森林の細い道、海岸の藍色の波、山に湧く白い雲などに憧れてゐますが

## その自然を自分のものに

することが出来ない、一歩出れば美しい自然がある、それに觸れることが出来ない、それを享け入れることが出来ない、庭を作り一株の草、一本の木で自然を味ひたい、想像したい自然を生活にもつて來たい觀念が人を園藝に親しませることになりました。公園もこゝから設けられることになるのですが、それは大人の問題とするも、子供にしても、自然の花風にそよぐ木々を眺めるのは懐かしいものに違ひありません。小供には子供の花を作つてやり、「これはお前の庭です、お前の自然です」と云つて與へることは

## 子供自身の喜びでもあり

自然教育としても最も大切であります。花壇では植物とはどういふものかを子供に教へることが第一義であります。一例を挙げると草花は何を喰べて大きくなつてゐるのだらう、人は息をし、食物を喰べてゐるのに、植物はどうしてゐるのだらう。子供はこういふことを考へてゐます、よく人は植物から根は肥料を吸ひ上げるものであるから根にさへ植物の食べ物と與へると、生長するものであると思つてゐますが、これ丈では間違ひです植物は二つの作用から生長します。第一

## 水分に溶けた肥料を根から

吸ひ上げ、第二、その上、葉が空中から炭酸瓦斯を吸つて、根から上つた肥料が葉の中で日光によりその炭酸瓦斯と化合して、それが養分になつて植物の體に廻るのであります。故に肥料と共に水も與へる必要があるのです、是等をよく子供に教

へるのは、直接子供に花を宛がふのが最も有効であります。植物は生物です、一つの種にも命はあります、命といふものを子に教へるには、種から葉が黄色くなつて枯死するまで植物を世話させるに超したことはありません。植物は又

### 規則正しい變化をするもの

です。一つの種にある温度を與へ、ある濕氣を與へ、土の中に埋められないと植物にならない、そしてその生長は規則正しい。そこで子供に規則正しさを教へ込むことが出来ます。次に園藝の興味は、その連続的のものであるところにあります普通の遊戯であると、一つの遊戯の道具を藏つて他の遊戯に移らねばならない。そして前の道具のことなどは、全然脳裡に残らないのでありますが園藝に於てはその世話をする時間は短くとも、害虫はどうか

### 植物は元氣で絶えず生長し

てゐるか、常に連續的注意を花壇に向けしめ

他日子供の成人後の仕事の上に必要な、連續的注意の習慣を養ひます。冬の間忘れた冷蔵庫を、翌る夏に出してみたところが、放任してをいた爲めに使用に堪えなかつたなどといふのはほんの一例ではあります。連續的注意の足りなかつたことを示してゐます。小供自身に花壇を作らせ、絶えず責任と注意の習慣をつけることは、他日社會へ出て自分の仕事をする上に、最も必要なことでもあります。赤兒に對する親の注意は、常に赤兒の泣いた時のみではありません。スヤ／＼

### 眠る赤兒にも親の注意は

あるものです。これは植物の栽培に似てゐます。一小花壇を作り、かくの如く手がかり、注意せねばならぬことが分ると、自分の親達が自分の生育に費す心配、努力の程をよく味ふことが出来、子供は花を作る時によく、それを諒解するものです。

花壇の色彩、大小の異なる花を植え、その特徴を巧に組合せることは、花壇を作る上の興味で子供にも興味を興へます。かく個性のある色々の花が、花壇を形作ることは各性格の異なる個人が

一つの社會を作つて行く

ことを暗示し、赤い花の隣に白い花が來るといつた具合に、組み合せることは社會組織の面白味を示し、花壇を例にとつて、人は誰でも仲よく暮して行かねばならないと、小供に説くのも面白いと思ひます。

遺傳の法則がしごく簡單にのみこめ

その繁殖法は手品の興味、最後に性教育について一寸一言しますと、遺傳のことを小供に教へるには、時期が早いかも知れませんが、花を作ると遺傳のことがよく解り

性の教育は植物について

話すと、簡易なもので上品に行ふことが出来る

と思ひます。美しく咲いた花を子供に觀賞させようとするのは無理だと思ひます。老人は美しく出來上つたものを、觀賞しようとするが、若き者小供は自分で出來上らせようとするものです。綺麗に花を作つて子供に見せても子供は満足しません故に花屋から花を買つて、花壇に植える可きではなく、種、少くとも苗から子供と共に作らねばなりません、種から栽培すると單純になつて、子供が倦きると思はれる場合には、他の繁殖法をとり根分け接ぎ木、差し木をするもよいと思ひます。子供は

その繁殖に手品使ひの手品

の時に覺える様な興味をもち、面白がつてその生長をまつものです。然し子供の花壇は必ず成功させねばなりません、一度失策すると、子供はもう興味を持たなくなりません。花壇に成功するために、親達の腕で相當効果を擧げる植物を栽培しな



ければならないので、ヒヨロ／＼の植物が出来る  
と、子供は花壇といふものに失望してゐます。こ  
れは充分研究してやつて頂かねばなりません。さ  
て、花壇を作るとして、まづ第一に考へねばなら  
ぬことは、第一、陽が當るかどうか、第二、風通  
しはよいか、第三、土質はどんなか、等でありま  
す。第一第二の要件に適してゐるなら、物干の上で  
も露臺の上でも構ひません。花壇といつても何も  
難かしく考へなくともいゝので、ビール箱、もつ  
と極端に云つて罐詰の空でも結構です。次に排水  
のことも考へて戴きたいと思ひます。例へばビー  
ル箱に植木を作るなら、まづ箱に小穴を明け、小  
石を敷いて、その上に土を盛らねばなりません。  
肥料はもとごえが一番です。もとごえとは苗を植  
える前に、土の中へ入れてをく肥料のことで、これ  
は充分に與へてをき後からは水を與へる位で充分  
です。尙人糞肥料は腐敗したものを與へる事です。

これは桶にでも入れてをけば自然に腐ります塵溜  
をさらつて山になつた塵を篩にかけその中にこや  
しを入れてやるのも一方法です。それから草花を  
作れば必ず害虫が来て病氣に罹るものと思はねば  
なりません。殊に人の栽培する園藝植物は弱いも  
のですから、必ず病氣がつくものと思つて戴きた  
い。又花壇といふと西洋花を作らねばならぬやう  
に人は思つてゐますが、西洋花に限つたことはあ  
りません。日本式の庭なら、日本の花を作ればよ  
いのでこうすれば家庭の老人達の御氣嫌に觸れる  
やうなことはありません。西洋花に比べると苗や  
種子を手に入れるのに、多少の困難を免れませ  
んが、心掛ければ直手に入るものです。花壇と云ふ  
と、誰でも花の色によつて出来上つた美しい菊花  
形の花壇や梅鉢模様の立派な花壇を想像し、そん  
なものを日本式な庭の中などへ作らうとするから  
よく家庭の問題になるので、日本式の庭園などに

於ては雨垂石に沿ふて、細い長方形の花壇などを  
作り、丈の低い草花などを栽培すると面白いと思  
ひます。これなら、さして御老人連の反對にも合ふ  
まいと考へられます。誰方の栽培にも適する草花  
の名を左に掲げませう。春咲く花は蛇の目草、矢車  
草、きんせん草、雛菊(デジー)、ロツプス、三色堇チ  
ューリップ、ヒヤシンス、アネモネ、春は球根花  
が多く、上手下手なく成功します。以上のうちヒヤ  
シンスの栽培は稍難しいものです。夏咲く花。ほう  
せん花、けし、つくばね朝顔、きんれん花、ルービ  
ン、雞頭、松葉ぼたん、百日草、美女櫻、日まはり  
ダリヤ、カンナ、ほうせん花は種のよいものを蒔  
くと、中々よく種子に觸るとはねるので子供が特  
に興味を持ちますけし、これはお菓子などによく  
ついてゐるのでこれも子供の興味を惹きます。ル  
ーピンは藤を逆様にしたやうな花です。ダリヤは  
相當手をつくす事を要しますが、カンナは樂なも

のです。秋の花。サルビア、雞頭、秋のもののコス  
モス、ポレミア、雞頭には夏のものと同秋のもの  
があります。コスモスはよく大きくなりすぎてお困  
りの方がありますが、これは差し木にして柔かい  
土の中に差すと恰度になります、ポレミアは蒔き  
放しでは不可いので一寸手数がかゝります。觀葉  
植物水草類草花の外に子供に作らせて面白いもの  
にはきやべつちりめんカンナ、ユカ、箒の木、き  
やべつは食べる方ではなく葉ぼたんの方です、  
ちりめんカンナともに栽培に譯のないものです。  
水草類又小さい池に睡蓮、くわい、おもだか、河  
骨の類を栽培するのも面白いと思ひます。

#### 茄子一つの獲物も

家庭中が大騒ぎする野菜もの、栽培の喜び野菜  
を作ることはいと考へます。これは子供のみな  
らず誰でも興味を持つところでせう。胡瓜、茄子  
等は、一つなつても一家中大騒ぎで賞味するもの

で、興味本位として、一家團欒の上から見て面白  
いと存じます。その他甘日大根、ルバーブ、茗荷  
やつがしら、さといも、藤豆、隠元等をお勧めし  
ます。

甘日大根は赤い蕪の様なもの、甘日かゝると出  
來るといふところからこの名があります。ルバー  
ブは落のやうにその莖をとりこれを煮て喰べると  
甘酸っぱい味のするもの、圖案の形を持つた植  
物です。種屋に行くにあります。茗荷は新芽をと  
つてお汁にすると結構です。やつがしら、さとい  
も共に葉の形の美しく、兩者ともあまり日光の當  
らぬところでも充分成功します。尚ほ馬鈴薯甘藷  
は不成功に終り勝ちのものです。隠元は赤い花を  
持ちます。果物としては草莓、グースベリー、カ  
レンヂ等その他柿栗無花果、ぐみ、ゆすら梅等は  
大丈夫好結果を得られますが、梨桃林檎の類は難  
しいものです。ぐみは興味本位に面白と思ひま

す。薬草としてははつか、カノネロ、サンシチ、  
ハブ草等、薬草類の多くは毒草ですから、無闇に  
子供のために栽培出来ません。子供の庭木として  
は月桂樹、ひまらや杉、とうひ、もくせい、もく  
れん、につけ等。

再び申しますと、植物の栽培から色々の話をひき  
出して、子供を教訓すること、一度栽培に失敗す  
ると栽培といふ根氣仕事に子供が興味を持たなく  
なりますから、充分研究して指導の任に當り、子  
供に手をつけさせて戴きたいと思ひます。

(完)

# 幼 兒 の 生 活

附 屬 幼 稚 園 内

一 保 姆

## 一、實物堀り

春も末頃でむしる夏を思はせる様な日の事でした。

多勢の子供達はあちらでもこちらでも遊んでゐます。その中で貞夫さんと慶夫さんと一嘉さんの三人がおつむを寄せて何やら一生懸命にしてゐるのが殊に目につきました。何をしてゐるのだらうと思つてそばへ行つてそつと上からのぞいて見ると一生懸命に土を堀つてゐるのです。そして一寸程の下には瀬戸物の一部が見えてゐました。三人に私のゐる事にも氣付かず。何も言

はずにたゞと掘りつゞけます。小さな手は土だらけになつて、甲の方は乾いてゐました。爪の間には堀が一ぱい入りこんでゐます。三人のおつむにはもう汗さへにじんでゐました。

「それなあに」

と私がききました。三人は一寸頭を上げて私の顔を見ましたが直ぐと又掘りつゞけます。

「その出てゐるのは何でせうね」

とも一度ききましたら、貞夫さんがさも一生懸命堀つてゐるらしく勢こめた聲で、



「知らないよ」

と。一言云つたなりやつぱりつゞけてゐます。

その中に慶夫さんは

「僕釘を拾つて來やう」

と云つて行きました。貞夫さんも一喜さんもつゞいて行きました。――震災後の事で

澤山の釘や瀬戸物が埋まつてゐたり落ちてゐたりしてゐました。――やがて三人は、今度は釘を持つて掘りつゞけました。もう餘

程深く掘られましたので、

「まだ取れないかしら」

と云つて瀬戸物をゆすぶつて見ましたがびくともしません。子供達は一向平氣な様子で尙もつゞけます

「ぢや先生ねお室へ行つてゐますから掘つてしまつたら見せて頂戴ね」

と云ひ残したまゝ、室には入りました。

暫く立ちましたが、まだ何とも云つて來ません。どうしてゐるかしらと思つて窓から見た時はもう三人の影は見えませんでした。

さつきの瀬戸物は花瓶のかけらだつたのです。釘と瀬戸かけと掘り立ての土が子供のしわざらしく残つてゐるだけでした。

## 二、トンネル

博さんも晁さんも登園早々お室へもは入らずに、お砂場へかけて來ました。お砂場には早く來た三四人の子供が、もうお山つ

くりをしてゐたのでした。

丁度雨あがりのすがくしい日で、初夏のあざやかな光りは、あすこにもこゝにも

きら／＼とさしてゐました。砂の湿りも丁度いゝ鹽梅なので、お砂集めもいつもより

ははかどり、忽ちの中に大きなお山が出来上りました。

「崩れないやうにうんと堅くしませう」

と云つて、ピタ／＼と叩き始めたらみんなも大悦びで叩き始めます。

博さんと正雄さんの方はあんまり勢がないので、向側の貞子さんや浩子さんの側が崩れかけました。

「やあこつちが崩れたぞ」

と云つて、正雄さんと文雄さんが加勢しましたので、漸くの事で平均がとれ、お山も固くなりました。

私と貞子さんは軒下の乾いてゐる砂を集めて来てお山の天邊へ雪を降らせました。すると秀之さんはこの前の箱庭をつくつた時の事をおぼえてゐたのでせう。

「僕ね苔を取つて来るね先生」

と云つて小箒と宮島を持つて立ちました博さんと浩子さんの二人も

「僕も」

「私も」

と云つて立ち上り、前後して裏庭の方へまわりました。

「先生僕は木をとつて来て植ゑるよ」

と、正雄さんが云へば、僕もと、晁さんも一緒に、岡の上の雑草取りに出かけましたやがてみんな夫々一杯取つて歸つて來ました。苔はまばらに置かれ、木はこんもりと植ゑられました。その中に文雄さんは

「トンネルをつくらうよ」

と云ひ出しましたので、私は西から、文雄さんは東から掘り始めました。漸くに文雄さんの手が砂の中でわかる様になりました「あ、文雄さんもう少しですよ。ほうら先



生の手がわかるでせう。ほーらね」

と云つてゐる中に、トンネルが出来ました大悦びです。額を砂にすりつけて一生懸命にのぞいてゐます。

「晁君向ふが見えるよ」

と一人々々に紹介しましたので、みんなが代る代るのぞきこみます。そしてはみんながみんな、額を砂だらけにしました。そうしてる中に浩一さんが

「こつちからもトンネルを作らう」

と云つて掘り初めました。正雄さんや博さんが反対の側から掘り、忽ちの中にこゝもトンネルになつてしまひました。四方の口からのぞいては嬉しがります。おしやもじを通すやう木片の汽車を走らせるやら大變な悦び様でした。珍しく崩れもしないで奇麗に出来上りましたので、惜しい様な氣持

になつて

「崩れない様に入口をかためませう」

と云つて、みんなで固め出しました。その中に正雄さんの方の入口がドサツと崩れてしまひました。一寸手をおいて私の顔を見てゐましたが

「やあ 崩れた崩れた」

と云ひながらふみつぶし始めました。すると文雄さんも博さんも浩一さんも秀三さんも大悦びで上りつぶしてしまひました。

「やあ〜」

と云ひながら手をふり上げ、足踏みして嬉しがる様、

貞子さんと浩子さんと私はたゞぼかんとして見てゐるだけでした。私の心の何處かに惜しいと云ふ淡い感じがしてゐました。そうしてる中に正雄さんは藤棚の下の水溜



りに目をつけました。

「ようみんなあすこへ行かうよ」

と云つて走つて行きました。みんなも行か

う行かうと叫び乍ら、くもの子の散る様に、  
バアツと向ふの水溜りへ移つて行つてしま  
ひました。

四六

○、 手をとつて書かする槐の廣葉かな

虚子

○、 走馬燈囃せばいよく廻りけり

鳴雪

○、 名月や池をめぐりて夜もすがら

芭蕉



# 遊戯講習會の盛況

——日本幼稚園協會主催——

## 一、

大正十四年七月二十五日から同二十八日まで四日間東京女子高等師範學校講堂に於て開催せられた。毎日午後一時より同四時までの三時間豫定で合計十二時間の實地講習の筈であつたが講師の熱心なると講習員の努力によつて五時六時に及ぶこともあつた。實は七月二十五日から同三十一日まで六日間毎日午前中四時間文部省主催の幼稚園に關する事項の講習があり、また中等學校の體操の講習が東京女子高等師範學校に於て開催中であつたので、自然この遊戯の講習に参加する人も少くなかつた。東京在住の人々は勿論遠く滿洲支那より出張せられた方もあつた位である。それで講習

員は合計二百七十餘名の大多數であつた。さすが東京女高師の大講堂もこの多數の講習員が十分に活動することが出来ないといふ様であつた。これは會員に對しても講師に對しても誠にお氣の毒ではあるが、何分他に大なるホールがないから蓋し止むを得ないこととして、出来る丈充分練習することになつた。

## 二、

講師は遊戯の研究家戸倉女史之を補助するに田中、酒井兩女史、戸倉女史は短身肥大の體格であるが遊戯の原理に通じ、その實際の熟練なる天下その比を見ない位、一見あの體格で遊戯が出来やうかと怪む素人にも女史の活動の圓熟せるを見て

感嘆せぬものはない。田中女史のダンスに堪能なることその體格に於て既に之を表徴するものゝ如く、酒井女史は最近健康を多少害せるを以て十分の活動が出来なかつたとはいへまた推賞すべき特徴を有する人、この三女史が十分の打合せと提携とによつて二百七十有餘の講習員が遊戯の理論並に實際を體得したことは實に空前の成績であつた。三女史が前二日の活動を受けて後二日の講師は天下その人を知らないものゝない土川五郎君、君は相當の老體ではあるが青年の到底及ばぬ元氣と得意の律動遊戯と表情遊戯とを示範説明せられる技巧の透逸なる、實に二百七十有餘の講習員中には可也の老人もあるが恰も幼稚園幼兒の如く面白く愉快に活動したのである。

## 三、

實に盛會で四日間の講習も無事閉會するに至つた。既に開會の辭に會長からお話があつたやうに

遊戯の研究は幼稚園教育の生命である。遊戯の良否は幼兒の生活を指導する鍵として最も重大なる關係を有してゐるから幼稚園教員は勿論、小學校教員に於てもまた中等學校教員に於ても共に十分なる研究をなし熟練をなすべきものである。四日間僅かに十有餘時間の講習は大海に投じた小石に異らぬ。之を以て大波を起すことは出来ないが、しかし以て刺戟となり動機を提供することが出来る。日本幼稚園協會は更に益々進歩を期し研究を希望して講習修了證明書を附與せるもの二百七十三名に及んだのである。この講習會で練習した遊戯の種目を列擧すると左の如くである。

## 夕立

飛行機

## 氣持のよい雨

雨だればつつりさん

## 雀の學校

あられ

## 蓄音機

鈴虫

荒城の月

風船と毬

一寸法師

夕焼小焼

紅い花 白い花

お花のトンネル

流れ星

皆さん明日また

お星さま

かけくら

シヤボン玉

お父様ひるね

赤いお靴

御國の譽

山のぼり

ジャーマン・クラブ・ダン

兎

雪の子

セブン、ジャンプス

以上の十八種は土川講師の指導によるものである。

以上の九種は戸倉、田中兩講師指導のものである。

## 教育會館の建設に就いて再び

### 全國二十萬の教育家諸君に訴ふ

帝國教育會長 文學博士

柳 澤 政 太 郎

帝國教育會は帝國聯合教育會の協賛の下に、學制頒布五十年記念として教育會館の建設を企て、全國二十萬の教育家諸君に訴へて其協力を求めた

ことは既に諸君の知られる所であります。私はこゝに此の事業の經過を述べ再び教育家諸君に向つて訴へたいと思ふのであります。教育會館建設の

大事業も先づ順當の経過を取り來つたと申してよいかと存じます。御承知の如く事業着手後間もなく例の關東大震災火災が勃發したので一大頓挫を來したのは眞に已むを得ない次第で、非常の意氣込と周到の用意を以て爲した準備が全く無駄になつてしまひました。然るに昨年四月以後再び準備

を爲して愈々仕事に従事することになりました。此の間に得ました次の成績大要を見ますれば先づ順當と申してよいと思ひます。これと申すも早く皇室の恩賜あり又教育者諸君が本事業の必要を認められた結果と思ひ、心強くも亦嬉しく感ずる所であります。即ち寄附金の申込總額は、正式に申込まれたものゝみでも既に十二萬圓以上に及んで居ます。拂込の總額は恩賜金五萬圓を外にして七萬圓に上つて居ます。併し本會館の寄附金は各聯合教育會に引き受けて募集をして戴いて居るので二十六の府縣教育會は引き受け額を決定して申込

んで居られるのであります。今これらの引受額を計算して見れば約四十八萬圓に達して居ます。餘の二十一府縣教育會も金額こそ明示せられないが殆ど總べてが既に募集に着手し又はまさに着手せられんとして居るのであります。

更に又實際上の事業を願れば、數萬圓を投じて本會館の附屬建物である教育者の宿泊所一橋寮を建設し、既に多くの教育者諸君が利用せられて居るのは御承知の通りであります。

以上の如き結果から見れば順潮な経過を取つて居ると言つても過言でないと思つて居ます。

然らば諸君は諸君に向つて再び何を訴へる必要があるかと思はれる方があるだらうと思ふのであります。それは外でもありません、近い中にもう本建築に着手すべき時期が到來したと思ふから、一日も早くこの募集を結了して頂きたいと云ふこととであります。

私はこゝに再び此の事業開始當時の宣言を繰返す必要を認めないのであります。しかしながらこの事業の促進の爲には諸君のこれに關する一層の同情と理解を得る必要があると存じます。

前の宣言に於て私は教育者の一致團結の緊要なる所以を論じ、その結果として我が教育の振興を促進すべき所以を説きました。又教育者は決して自己直接の利害を思つて公的事業の達成に無關心なるが如き人あるを信じないことをも述べて置きました。この教育會館は教育者のこの團結精神の象徴とも言ふべきもので、この會館の建設は實に我が教育上の急務である所以をも明かにして置いたのであります。我が二十萬の教育家諸君はこの宣言を御記憶下さつて居ることと思ふのであります。

この趣旨と前に申上げた現状とを思ひ合せて下さいますれば、兎に角教育上のこの大事業が成功

するには今一步の努力であつて、やがて教育上の輿論の源泉となるべき大本宮が成就しようとする機運に向つたことを御諒解下さるであらうと思ふのであります。

一方東京市の區劃整理も豫定より餘程遅れましたが今數月にして愈々決定に至ることゝ存じます。それに唯今、建築材料は非常に低落して居ます。あるものに至つては平價の半額位になつて居るものもあるさうです。若しすべての區劃整理が完成して多くの方面で本建築に取りかゝるとすれば、材料は更に著しく騰貴するのは明かなことであります。若し今日直に建築に着手するとすれば恐らく數萬圓を利益することになると思ひます。

御承知の如く我が皇室に於かせられては、一昨年五月帝國聯合教育會開會中に恩賜金を下賜せられました。帝國聯合教育會は感激措く能はず、本聯合教育會は皇室が教育を尊重あらせらる

この深厚なるを欽仰し益々國民教育に盡  
瘁せんことを期す

といふ決議をなし、委員を選んでこれを宮内大臣  
に奉呈して居られるのであります。この決議に對  
しても、聯合の各教育會は一日も早くこの會館を  
成就するの責任があると存じます。

右の次第で、本會は此の際一日も早くこの教育會  
館の工事に着手したいと存じます。それには  
今日から略々豫定を立て、からねばなぬことは勿  
論のことであります。若しこの十月頃に區劃整理  
が決定するとすれば、先づ第一に工事の設計にか  
ゝらなければなりません。實は前設計は略々完成  
して居たのであります。敷地の形狀が大分違つて  
來さうでありますから、ソツクリ改めて設計を遣  
り直さなくてはなりません。夫れには多分三ヶ月  
を要ませう。設計が出来れば次には工事の入  
札をやらなくてはなりません。その準備として一

二ヶ月を要します。愈々工事に着手するとしても  
落成迄には先づ一ケ年を要します。即ち大正十六  
年の三四月頃になることゝ存じます。この間約一  
年半であります。即ちこの間に豫定金額の出金を  
願はねばなりません。

私の再び教育家諸君に訴へたいのは全くこの點  
に存するのであります。全國二十萬の教育家諸君  
が教育會館建設の意義を御諒解下さつて眞劍に御  
努力下さいましたならば、今日までの成績の緒を  
繼いで當初の希望を満足に達成することは期して  
待つべきと思ひます。終りに臨みて前宣言の一文  
句を引用してこの宣言を終りたいと存じます。  
予は今日の自覺したる教育者の中にはたゞ目  
前の個人的利害のみを打算し永遠の理想を顧  
みざるが如き者の一人もなきことを信ずる  
と申しました。この信念は今日も猶變りません。  
私は何處までも我が教育家諸君の公同心協同心の  
深厚なるに信賴します。私は諸君と共に一日も早  
くこの會館の落成を見て教育振興の基礎を固め、  
國運の隆昌を致し、以て優渥な聖恩に報いられん  
ことを深く希望して已まない次第であります。



# 兼ちゃん。」

東京女子高等師範學校教授

岡田みつ

(七) 寫眞

土曜日の午後、田村の家族が揃つて立花町を練つて行く様子は、さも用ありげだつた。お芳と千代ちゃんとは、めかしこんで居たがそれを委しく述べたてると長くなるから、それは省くとして、兼ちゃんも晴着を着て新調の帽子を被つて居た。吉藏は、高帽をすこし横つちよに被つて緊い高いカラを着けてゐる。その兩端が首を動かすたびに咽喉を突くので弱つて居た。

「もうぢき、お父ちゃん？」と兼公は、父の面を見上げて訊ねた。

父親は「痛い」といふ聲を呑みこんで「そうだよ。」と答へた。

「何故、ひとは寫眞を取るの。」と兼公が尋ねると、

「全くだなア、兼坊。母ちゃんが原田の祖父さんに上げたいツて言ふんだ。」

「あたい、寫したくないナ。」

「いやか。お父ちゃんもほんとに厭なんだが、母ちゃんが寫したがるんでな。」



「お前さん、何を兼坊に言つてンです。」とお芳が言つた。

「あのナ、」と吉藏は妻の方を向いて、カラが食ひ入るのでたじろぎながら、

「兼公と二人で、寫真屋は怖いといつてるところよ。」

「あ、そう。」と上機嫌にお芳は微笑して、「ぢやネ。母ちやんと千代ちやんとで怖くしないように寫真屋ちやんに頼まうね。千代ちやん。……あら、お前さん、どうしたの？ 大變な顔をするぢやないか。」

「このカラがいけないんだ。お前が、何でもしろツていふから。」

「見たかたちは良いよ。すこし緊いのかい。」

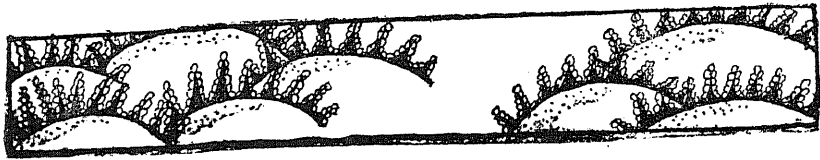
「全くよ。首がちぎれさうだ。」

「ま、い、ぢやないか。眞寫にはよく出来るよ。さあ大變だ！ 兼坊はどこへ行つたらう。」

夫婦は心配さうに後戻りすると、兼公は往來に立つてお菓子賣りの屋臺を羨ましさうに眺めて居た。

「兼ちやん、お父ちやんに手を曳かれてね、もう勝手に、はぐれちやいけないよ。お夕飯にお菓子が貰へないよ。」とお芳は子供が容易く見付かつたのを悦んだ。





「お前さん、後生だから、この子を放さないようにしてゐておくれ。」

「さ、おいで、兼坊。」と吉藏は手を出して「もう寫真屋へ來たせ」

やがて一行は寫真屋の狭い長い階段を登りかけた。

「千代坊をおれにおよこし。」と吉藏がいふと、

「あい、お前さんの方がいゝ。私や、ま赤な面をして、息をはづませるところを寫真にとられたくないからね。」と言ひながら、千代坊を渡した。受取つた方の吉藏は一層カラに惱まされることになつてしまつた。

階段をせつせと昇りながら、兼ちゃんが、

「母ちゃん、あたゐ、この帽子を被つたなりで寫すの。」と訊いた。

「寫真屋が何ていふかきいて見よう。」と母親は答へた。

「脱れつていふといやだナ。」

「まあ、いゝ、訊いてみやう。」

「母ちゃんも帽子を脱るんだらう。」

「そんな事があるもんか。」

「何故……」



黙つてく。」とお芳は、なるだけ口敷をきくまいとするらしく制した。

やつと一同建物の最上層にある寫真屋の室に到着し、扣室の座に就いた。お芳は千代ちゃんを膝に載せて、何か子供に話しながら衣服を直したりしてやつてゐた。

兼ちちゃんは、壁に懸けてある數多の寫真を熟と看ながら、

「お父ちゃん、何故寫真を取るときに、みんな變な顔するの。」

「ありのまゝの顔なんだよ。」と父親は嗤ひながら咽喉に手を當て、答へた。

「あたかも寫真とるとき可笑しな顔していゝ？」

「母ちゃんがいけないと言ふよ。」

「何故？」

「何故つて、唯……唯いけないんだよ。ごらん母ちゃんが呼んでらア。」

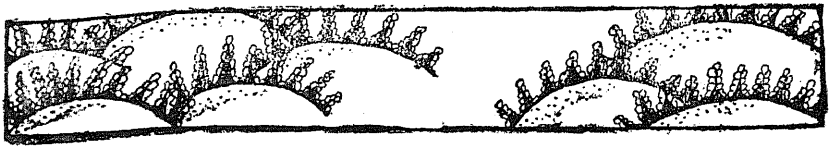
お芳は兼坊に手招きして傍へ寄せ、

「靴下を引張り上げて、そんな、しかも面をするんぢやないよ。……あれ、何だつて髪を

そんなにもぢやくにしたのさ。ちゃんと撫でつけて上げるから、じつとしておいで。」

お芳は懷中から櫛を取出して、兼公の逆立つてる髪を直して「さ、そこに坐つてさあと

いふ時まで動かすにおいで。一寸お前さん！」



「何だ。」

「こゝへおいで。その上衣を引下して上げるから。まるで背駝みたように見える。」

「かまふもんか、背中を寫しやしめいし。」と言つてのけたものゝ、矢張お芳の傍へ來た。

「だつてどう寫るか分りやしないもの。」とお芳は賢こげに答へて「こゝにある寫眞をいろ

く見たんだが、中にはあんまり感心しないのがあるよ。」

「そんなのを千代坊に見せないがいゝせ。びつくりすると困るからナ。そうだね、坊や、

こらく」と、彼は笑つて千代ちゃんのおごの下を撫でたりした。

「お父ちゃん、お父ちゃん……ん。」と千代ちゃんが呼び立てた。

「上手だ！ く。」吉藏はカラのボタンが外れてしまつたので、せいせいしてゐた。

「さこれでお前さん着物がきちんとしたよ。……だけど、ネクタイが……あれ、お前さん

のネクタイは背中へまはつてるぢやないか！」

「仕方がねいや。こんな厄介なカラをすれや、ネクタイがすつば抜けるのはあたりめい

よ。」

「何故ネクタイ止めを使はないの。」

「おれや、あれが嫌ひないんだ！ かまはねいよ。おら獨りで直すから。」



「チョツ！ 今、もすこしでちやんとなるとこだつたのに！ あ……あ、これで良し、そらね！」

悦びの聲と同時にネクタイは元の位置に納まつたが、こんだはカラがボンと開いてしまつた。

「ほんとにお前さんどうしたの。」とお芳も、すこし自烈つたくなつて「なんだつてボタンを外したの。」

「ボタンが破れたんだ。」

「破れた！ それで、お前さん寫眞を取る氣なの。」

「あ、これで可いんだよ。上衣のボタンを掛けておけば、カラがそれで留つてゐたらう。

そら、上等だ！」

「だつて、お前さん。」とお芳が言ひ出さうとすると、皆さん、どうかこちらへと案内する聲がした。

「いゝかい、キャビネ板ていふんだよ。」とお芳は、兼坊と千代ちやんとを、も一度検査してから小聲で注意した。

吉藏は寫眞屋にその通りの注文をした。やがて一族が位置についた……お芳は千代ちや



んを膝に抱き、兼公は足の端を開いて母親の傍に立ち、吉藏は後ろに居て、親しげに片手を妻の肩に休めてゐた。寫真師は黒布の中へ首を埋めた。

「あれ何してゐるの。」と兼公はかすれ聲で囁いた。

「黙つて！」とお芳が囁いた。

「覗いてゐるんだせ。」と吉藏がそつといふ。

「何故覗いてゐるの、エ、お父ちゃん。」

「みんな行儀がいゝかどうだ。か見てるんだ。」と吉藏はふざけながら答へて「そうだなあお芳」と訊いた。

「静かにおしつてば！」とお芳から手きびしい返事が來た。彼女は取りすまして硬くなつてゐた。千代ちゃんはおち／＼不安の態を見せ初めたら、やつと寫真師が顔を出した。そして、坊ちゃんも帽子を脱ぎ、旦那は上衣のボタンをお外しなさるようにと言つた。

「こいつは參つたな。」と吉藏は溢面を作つて笑つた。

「兼ちゃん、帽子をお脱り。」とお芳は、せつなさうにいつた……後部の事件を考へて。

「あたい、帽子をとらないんだよ、母ちゃん。」と兼公が言ふ。

「言はれる通りにするものだよ。手に持つてればいゝ。」



「さうです。坊ちゃん帽子を手にお持ちなさい。」と寫真師は愛想よく言つた。  
兼公は、不平さうな顔をして言ふ通りにした。

「どうかボタンをみんなお外し下さい。……のこらすとうぞ。」と寫真師は丁寧に吉藏にいつて、寫真機の方に向つた。

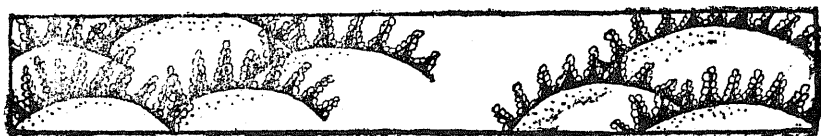
吉藏はくすく／＼笑ひながらボタンを一つだけ残してあとを皆外した。お芳の首はだんだん垂れて來た。……恥かしい思ひをするんだと思つて。

「母ちゃん。」とだしぬけに兼公が言ひ出した。「あたい、髪をもぢやく／＼にしちやつたよ。また帽子を被らうか。」

お芳は、急に頭を上げて懷中から何だか取出して、

「お前さん、あつちの室へいつてもしか私臺の上に櫛を置き忘れて來やしなかつたか見えて下さい。」それから聲を落として「それから……あの……あ……こゝにピンが二本あるから。」こんどは寫真師に向つて「すみませんが、一寸どうか待つて下さい。この子は、ほんとに世話をやかせて。」  
とやさしく附け足した。

寫真師は機嫌よく微笑した。すると、お芳はあら櫛はやつぱり懷中にあつたと言つて悴



の頭の髪を梳いてやつて、

「あの、差支がなければ、この子は帽子を被つたまゝで取りたいんですが。」といふと

「えい、それでも結構です。」と寫真師は同意して、「坊ちやんの表情はどうも被つて居たときの方がたしかに快活でしたな。」と答へた。

吉藏は、上衣をさつと開いて、にや／＼しながら入つて來た。

「櫛はどこにも見えなかつたせ。」

「え、やつぱりふどころにありましたよ。……さ、もう宜しうございます。」

とお芳が寫真師に言つたので、寫真師は早速仕事に取りかゝつた。

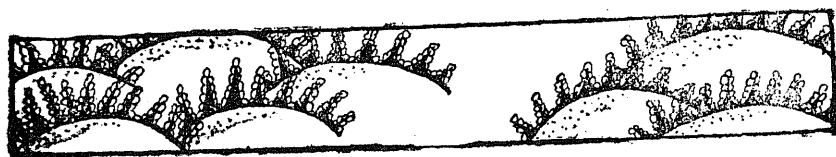
何の邊をどんな風に見てゐろと注意をし、みんなの顔から笑ひが消えるのを待つて彼は感光をさせると兼公が肝心のところで鼻を搔いて駄目にしてしまつた。

だつてしやうがないや。あたゐ、鼻がそれあ くすぐつたかつたんだもの。」

「ぢや、この次は我慢しろよ。も一度寫すんだから。」どうぞ、お動きにならずに。」と寫真師が注意する。

千代ちやんが母親の膝の上でヨタ／＼揺くと、

「あれごらん、あれごらん。」とお芳は寫真機を指して「いゝ、可愛いゝお窓だネ。」



「お父ちゃん、あの函の中に何があるの。」と兼公がいふ。

「どうぞ、願ひします。私が今……二……さ……「もう取れたの。お父ちゃん。」

「まだ、まだ、お前また駄目になるとこだった。さ　じつとして。」

「お芳は　氣むづかしくりな出した千代ちゃんをあやして、

「さあ、さあ、千代ちゃん、あの可愛いお窓で寫真をとつてもらふんです。あれごらん！あれごらん！」やつと小康があつた刹那を利用して、寫真師は一枚とつた。また一ざわつきしてから、もう一枚とつて、こんどのは非常にうまくいつたやうだとお芳に話した。吉藏は、出来上つたのをすぐ持ち歸るつもりでゐたのをお芳が小聲で、そんな事は出来ない。キャピネは時がかかるのだと教へた。話をとりきめて、一同は店を出た。

母ちゃん、あたいの帽子ね、寫真にも紅い總がついてるのが出る？　紅くは寫らないよ。」

「どうして。」と兼公は如何にも、つまらなさうに見えた。お父ちゃんに訊いてごらん。」

兼公が父に尋ねると、「いゝやな。紅く出なかつたら赤く彩つてくれと頼んでやろよ。

きつとしてやる。お前はいゝ子だからな。そうだなお芳。」

「あ、このもちやく／＼頭め！」と母親は笑つたり歎息したりした。



○人もなし木蔭の椅子に散松葉

○草花を壓する木々の茂かな

子 子

規 規

# 告 稟

# 定 規 文 注

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說  
 調査研究等の寄稿を歓迎いたします。  
 一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字  
 下げること。また句讀點は一字あけること。  
 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新  
 刊書、交換雜誌、入會手續、更に  
 本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切  
 左記編輯兼發行所宛に願ひます。

## 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内 日本幼稚園協會

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい  
 居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校  
 附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。  
 一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金  
 (郵稅共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)  
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七  
 二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。  
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特  
 に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。  
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封  
 に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御  
 送金を願ひます。  
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひ  
 ます。

### 定 價

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

(外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

大正十四年九月十日 印刷  
 大正十四年九月十五日發行

幼兒の教育 第二十五卷 第六號

不 許 複 製  
 禁 轉 載

編輯兼發行者 堀 七 藏  
 東京府豐多摩郡戶塚町大字戶塚五七五

印刷者 大杉直次郎  
 東京市牛込區山吹町一九八

印刷所 大杉印刷所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

### 廣 告

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓  
 一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷  
 日本幼稚園協會に御申込下さい

文學博士  
久保良英主幹  
青木誠四郎主任

# 幼兒之研究 第一輯

菊判洋綴  
價壹圓廿錢  
送料拾八錢

低學年、幼稚園の教育は教育の根柢であり、  
ます。ですから歐米のこの方面の研究、施設  
の發達には極めておどろくべきものがあり  
ます。本書はそれ等を知ると共に我學界の  
尊き研究の發表機關です。幼い小供のよき  
教育のために、本書の必讀を切に推奨致します

## 目概容内

幼兒に於ける數の發達について  
兒童精神の理解について  
兒童生活理解の方法について  
兒童生活理解の方法的立場について  
幼兒研究の讀方及書方に關する研究  
幼兒の實驗的研究の歴史  
廣島高等師範學校文學博士  
廣島高等師範學校文學士  
東北帝國大學文學士  
青木誠四郎  
黒田新英  
長保良  
久田新英  
木上茂  
青木誠四郎  
川上茂  
アイオワ大學バード、ボールドウィント

京城帝國大學教授  
福富一郎新刊  
先生新著

# メンタル・テストの原理

菊判全一冊洋綴  
紙數五百插畫百  
定價金四圓五拾錢  
送料拾八錢

テストの結果標準  
を知らんとする人  
の爲めに提供す

入學試験問題としてメンタルテスト或はテスト形式の適用は、科學的正確といふことに對する人間の根柢深い要求によつて今や當然のことと考へられて來た。本書は我が國に於ける教育心理學の權威福富先生が久しき以前よりこれが理論及び實際に對する人間の根柢深なる研究の成果で最も親切丁寧に且つ基本的科學的なる解決を提供し得る近來の好著である。凡ての根本基調は徹底した個性の研究に教育の大家を傾じ公にした。本書は斯道學會が各方面

巨理章三郎新刊  
先生主幹

## 個性と教育

菊判洋綴  
定價壹圓五拾錢  
送料拾八錢

文學士  
青木誠四郎譯

## 保育學校實際研究

全一冊畫三十  
送料六錢

文學士  
青木誠四郎著

## 兒童心理學序說

全一冊畫四十  
送料拾八錢

東京女高師前講師  
黒瀨艶子著

## 幼兒の想像と其教育

全一冊畫七十  
送料拾八錢

文學士  
上野陽一著

## 學校精神検査法指針

全一冊紙數六百  
定價五圓  
送料貳拾七錢

## 兒童研究叢書

醫學博士  
三田谷 啓著

## 學童保健

全一冊紙數六百  
定價五圓  
送料貳拾七錢

發行所 東京市牛込區中區文館書店 電話 振替 東京 三三三 四八二 二七五 番

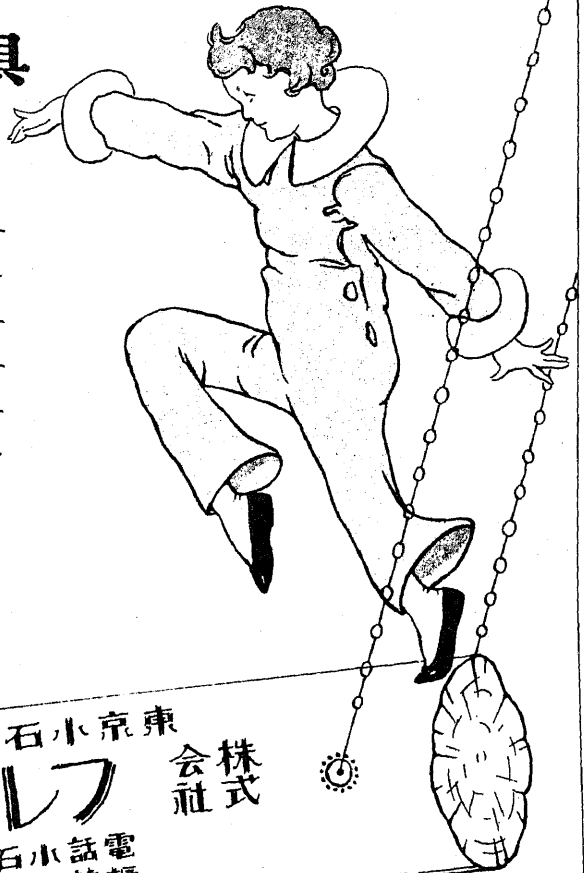
幼児の最良運動具を提供します

此の運動具は理論家技術家實際家の最善  
を盡したる研究の結晶であります

1925年式

# 鐵製運動具

鐵製アランコ	¥ 65.00
" 辻 壘	¥ 90.00
" 遊 動 木	¥ 95.00
" 廻轉シーソー	¥ 70.00
" 廻轉馬椅子	¥ 45.00
" 廻轉スケート	¥ 38.00



町谷ヶ指区川石小京東  
館ルベール 株式会社

一〇三六川石小話電  
〇四六九一京東替振